

(4) 昆虫類

1) 事後調査の結果

供用後の事後調査の結果、19目215科1154種の昆虫類が確認された。確認した種の一覧表は資料編に示した。昆虫類の確認は基本的に成虫で行ったが、一部、幼虫（トンボ目、バッタ目、ヘビトンボ目、チョウ目など）や鳴き声（バッタ目、カメムシ目）による確認も行った。

環境影響評価時及び供用後の事後調査の目別確認結果を表 6-93 に、目別種類数の割合を図 6-89 に示した。

事後調査においてはチョウ目（330種）、コウチュウ目（304種）が多く確認され、2目で全確認種数の5割以上を占め、次いでハエ目（150種）、ハチ目（141種）、カメムシ目（124種）が比較的多く確認された。環境影響評価時と比較するとコウチュウ目、チョウ目等6目で確認種数が減少しているが、ハエ目、ハチ目、バッタ目等7目では確認種数が増加した。

季節別では春季347種、夏季734種、秋季509種が確認された。影響評価時には春季566種、夏季910種、秋季509種が確認されており、いずれも夏季に最も多くの種が確認された。

表 6-93 環境影響評価時及び供用後の事後調査の目別確認結果（昆虫類）

目名	確認種数			
	環境影響評価 (H17)		供用後の事後調査 (H25)	
イシノミ	1	0.07%	1	0.09%
カゲロウ	1	0.07%	3	0.26%
トンボ	28	1.99%	24	2.08%
カワゲラ	1	0.07%	2	0.17%
バッタ	33	2.35%	44	3.81%
ナナフシ	2	0.14%	1	0.09%
ハサミムシ	4	0.28%	4	0.35%
カマキリ	2	0.14%	2	0.17%
ゴキブリ	1	0.07%	1	0.09%
シロアリ	1	0.07%	1	0.09%
カメムシ	122	8.68%	124	10.75%
ヘビトンボ	3	0.21%	1	0.09%
アミメカゲロウ	13	0.92%	7	0.61%
コウチュウ	652	46.37%	304	26.34%
シリアゲムシ	3	0.21%	3	0.26%
ハエ	65	4.62%	150	13.00%
チョウ	389	27.67%	330	28.60%
トビケラ	6	0.43%	11	0.95%
ハチ	79	5.62%	141	12.22%
計	1406	100.00%	1154	100.00%

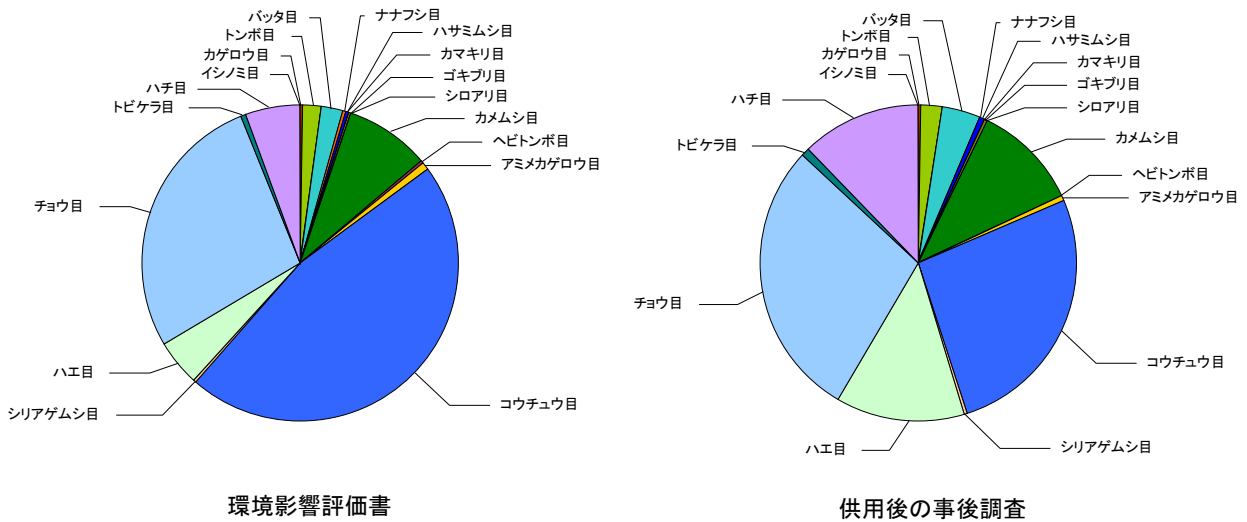


図 6-89 環境影響評価時及び供用後の事後調査の目別種類数の割合

環境影響評価時と供用後の事後調査を比較すると、供用後の事後調査では環境影響評価時より全体で確認種が 252 種減少した。季節別には、春季調査（早春季を含む）では 219 種、夏季調査では 176 種減少し、秋季調査では同じ確認種数となった。事業以外の影響としては調査実施日の条件等の違いが考えられ、それを以下に示す。

環境影響評価時と供用後の事後調査における調査実施日の仙台市の気象データをに示す。供用後の事後調査では、春季、秋季調査とも調査日は概ね好天に恵まれた。

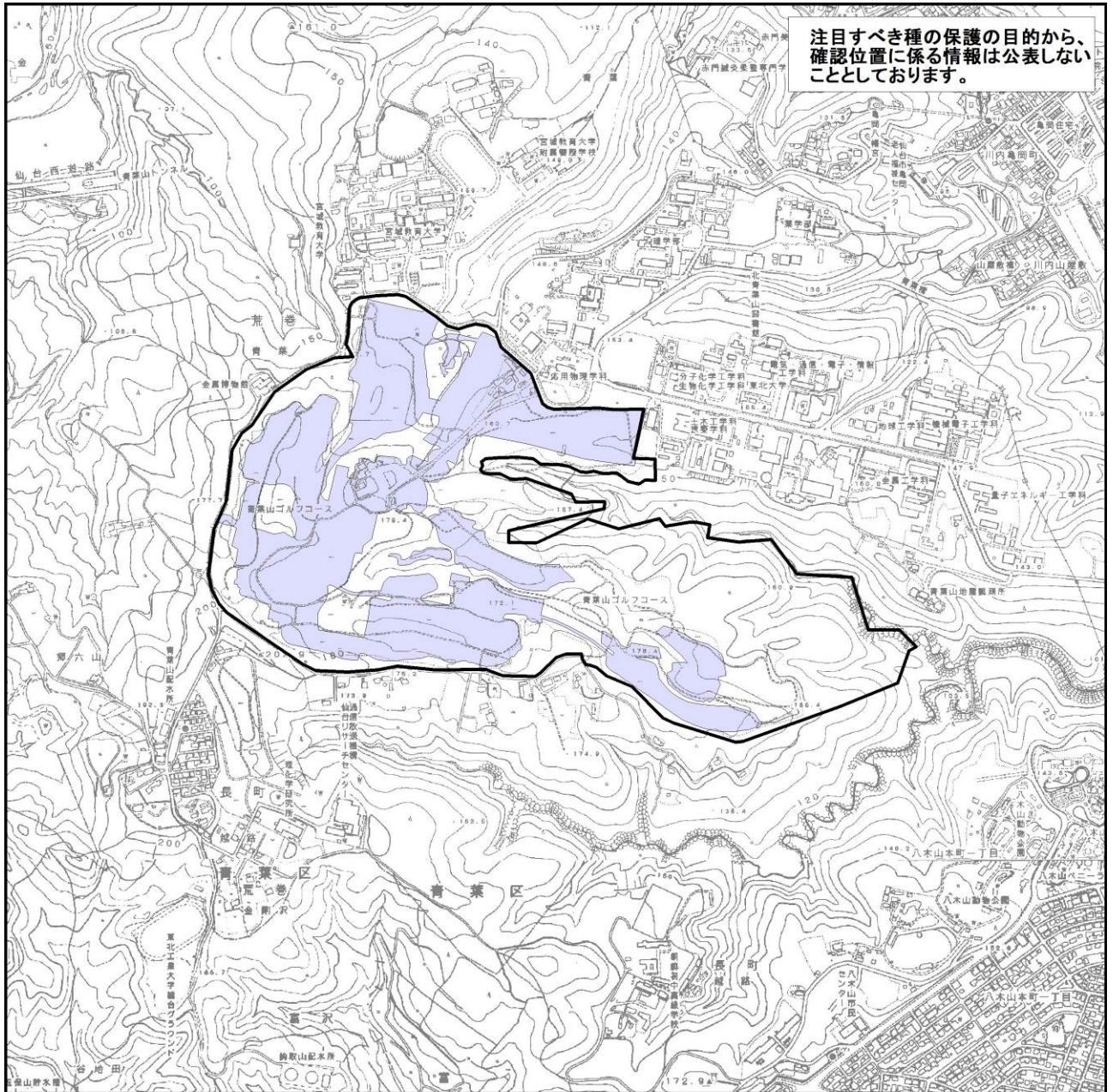
夏季調査時（7 月 22～24 日）は悪天候だったため、8 月 10 日に補足調査を行ったが最高気温が 35℃を超える猛暑日となり、比較的良い条件での調査は行えなかった。調査日数、天候とも同じ条件で調査を行った秋季調査では確認種数に差がないことから、夏季調査において環境影響評価時より供用後の事後調査時に確認種数が減少した原因は、天候の違いによるところが大きいと考えられる。環境影響評価時と供用後の事後調査では、コウチュウ目の減少の度合いが大きい。コウチュウ目は夏季調査で確認種数の増加が期待されるが、供用後の事後調査では気象条件に恵まれなかったため、コウチュウ目の確認に影響が及んだと考えられる。

また、春季調査においても、供用後の事後調査の確認種数は環境影響評価時より減少した。これは、環境影響評価時には早春季調査を平成 17 年と平成 18 年の 2 回行っており、調査頻度の違いにより、確認種数の差が生じたと考えられる。

表 6-94 環境影響評価時と供用後の事後調査における調査実施日の仙台市の気象データ

				降水量 (mm)	最低気温 (°C)	最高気温 (°C)	平均気温 (°C)	天候				
環境影響評価書	平成17年	早春調査	4月 18日	-	3.9	13.9	8.3	薄曇時々晴				
			19日	-	4.8	13.8	8.3	晴				
		春季調査	5月	23日	8.5	11.1	20.9	14.9	曇時々晴後雨			
				24日	1.5	10.2	15.5	11.7	曇り後時々雨			
				25日	-	10.1	18.7	13	晴			
				26日	-	8.2	18.8	13.1	晴			
				27日	9	11.4	18	14.6	雨時々曇			
		夏季調査	7月	29日	4.5	20.1	28.4	23.6	晴後一時曇			
				30日	0	22.8	30.8	25.1	曇			
				31日	0	23.1	29.5	25.1	曇			
			8月 1日	0	23.3	28	24.7	曇後一時晴				
		秋季調査	9月	12日	-	19.8	27.7	24.2	晴			
				13日	-	21.2	31.6	25.6	曇			
				14日	2.5	21	27.9	23.8	曇時々晴一時雨			
				15日	0	16.8	23.6	19.7	曇後時々晴			
4月 6日	0			1.2	8	4.2	晴時々雨一時雪					
環境影響評価書	平成18年	早春調査(追加)	7日		2.7	9.1	5.3	曇時々晴				
			18日		5.4	21.3	12.7	晴一時薄曇				
			19日		6.7	13.1	9	曇				
			7月 11日	2.5	20.4	26.3	22	曇一時霧				
		夏季調査(追加)	7月	12日	6	21.6	32.6	26.4	晴時々曇一時霧			
				13日	19.5	23.4	26.6	24.8	雨後時々曇			
				14日	-	23.1	33.6	28.7	晴時々曇			
				15日	22.5	22.2	29.3	24.3	雨時々曇			
				供用後の事後調査	平成25年	春季調査	5月 20日	0	13.2	21.7	16.9	曇
							21日	-	14.9	25.6	19.1	晴
22日	-	13	22.7				17.5	晴時々薄曇				
夏季調査	7月	22日	28.5			18.7	22.4	19.7	雨			
		23日	0			18.9	22.5	20.4	曇			
		24日	4			19	21.7	20	曇後時々雨			
秋季調査	8月	10日	-			25.6	35.6	30.5	晴			
		9月	17日			-	14.6	27.9	21.4	快晴		
			18日			-	14	27.2	20.8	晴		
19日	-		15.1	25.3	20.3	晴						

※気象庁 仙台市気象データ参照 (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)



凡例		
	対象事業実施区域	
	調査範囲 (対象事業実施区域境界より200m)	
	変更エリア	




1 : エゾイトトンボ	21 : コクロツヤヒラタゴミムシ	41 : ウラクロシジミ
2 : ヤブヤンマ	22 : クビナガゴモクムシ	42 : ウラギンスジヒョウモン
3 : オオルリボシヤンマ	23 : オオトクリゴミムシ	43 : オオヒカゲ
4 : クロスジゲンヤンマ	24 : キベリクロヒメゲンゴロウ	44 : アサギマダラ
5 : エプトトンボ	25 : アカゲシガムシ	45 : コエビガラスズメ
6 : タカネトンボ	26 : コエンマムシ	46 : ヒメカキバアオシヤク
7 : リスアカネ	27 : オオセンチコガネ	47 : モンスズメバチ
8 : ヤスマットビナナフシ	28 : カタモンミナミボタル	48 : ササキリギングチ
9 : オオコオイムシ	29 : ジュウロクホシテントウ	49 : クロマルハナバチ
10 : ヒメオオメナガカメムシ	30 : コクビボソムシ	
11 : オオツノトンボ	31 : アオカミキリ	
12 : コハンミョウ	32 : タテジマカミキリ	
13 : マガタマハンミョウ	33 : ハスオビヒゲナガカミキリ	
14 : クロカタビロオサムシ	34 : オオキノメイガ	
15 : コアオマイマイカブリ	35 : ホソバセセリ	
16 : ヨツモンコムズギワゴミムシ	36 : スジクロチャバネセセリ	
17 : キンナガゴミムシ	37 : モンキアゲハ	
18 : ヒロムネナガゴミムシ	38 : ウラギンシジミ	
19 : ニッコウヒメナガゴミムシ	39 : ムモンアカシジミ	
20 : ベーツナガゴミムシ	40 : オナガンシジミ	

0 250 500 m

図 6-90 供用後の事後調査で確認された注目すべき種（昆虫類）
（法定種・レッドリスト掲載種等）



凡例

	対象事業実施区域	1 : オオアオイトトンボ
	調査範囲 (対象事業実施区域境界より200m)	2 : モノサシトンボ
	改変エリア	3 : ミルンヤンマ
		4 : オニヤンマ
		5 : ハヤシノウマオイ
		6 : トノサマバツタ
		7 : オオカマキリ
		8 : エゾゼミ
		9 : ミヤマクワガタ
		10 : アオバセセリ
		11 : アカシジミ
		12 : ジャノメチョウ


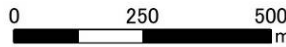



図 6-91 供用後の事後調査で確認された注目すべき種（昆虫類）
（仙台市の注目種）

2) 予測結果の検証

環境影響評価時及び供用後の事後調査における調査時期を表 6-96 に示した。環境影響評価時に予測評価の対象とした種のうち、供用後の事後調査での確認結果を表 6-97 に示した。環境影響評価時に予測評価を行った65種のうち、供用後の事後調査において19種が確認された。

次頁以降に評価書で予測評価の対象とした種について、予測結果の検証を行い、その内容を記した。ただし、環境影響評価時には早春季及び春季調査をそれぞれ2回行っており、供用後の事後調査では春季調査1回であるため、環境影響評価時の方が調査実施日数等が多い状況となっている。

検証の結果、供用後の事後調査で生息を確認している昆虫種については、事業による影響は小さかったと考えられる。もともとの確認数が少なかった種については、事後調査で生息を確認できていない昆虫種もあり、これらの種については事業による影響が及んだ可能性を否定できない。ただし、昆虫種の生息場として重要な環境である樹林及び水辺について、既存樹林を極力残し、水域の保全を行っている。また、昆虫類を誘引しにくい照明の利用、大きな窓でのブラインドの使用、昆虫類の移動性に寄与する水と緑のネットワークの保全を行っており、昆虫種の生息環境の維持に努めている。さらに、供用後の事後調査では、環境影響評価時には確認されていない30種の注目すべき昆虫種を新たに確認した。以上より、事業による昆虫類への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置を図っていることから、追加の環境保全措置は要しないと考える。

表 6-96 環境影響評価時及び供用後の事後調査における調査時期

調査項目	評価書										供用後の事後調査				
	(H17)					(H18)					(H25)				
	早春	春	夏	秋	冬	早春	春	夏	秋	冬	早春	春	夏	秋	冬
昆虫調査	●	●	●	●	—	●	●	—	—	—	—	●	●	●	—

注) 調査実施日は5章参照。

注1) 環境影響評価時に「ヒメオオメカメムシ」と標記されていた種は、現在の標準和名「ヒメオオメナガカメムシ」とした。

注2) ムカシヤンマ、オオツノトンボ、マガタマハンミョウ、マダラコガシラミズムシ、マルガタゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、オオムラサキ、コウチスズメの8種を除いた57種は、最新の環境省レッドリスト、宮城県レッドデータ、仙台市の学術上重要な種から除外された。なお、除外された57種は、表 6-97 では赤字で示した。

表 6-97 環境影響評価時に予測評価の対象とした種のうち、
供用後の事後調査での確認結果（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	環境影響評価 (H17~18)	共用時事後調査 (H25)	
1	トンボ	イトトンボ	エゾイトトンボ	●	●	
2		ヤンマ	ルリボシヤンマ	●		
3			オオルリボシヤンマ	●	●	
4			クロスジギンヤンマ	●	●	
5		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	●		
6	ナナフシ	ナナフシ	●			
7	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ	●		
8	カメムシ	コオイムシ	オオコオイムシ	●	●	
9		オオメナガカメムシ	ヒメオオメナガカメムシ	●	●	
10		キンカメムシ	アカスジキンカメムシ	●		
11	アミメカゲロウ	ツノトンボ	オオツノトンボ	●	●	
12	コウチュウ	ハンミョウ	マガタマハンミョウ	●	●	
13		オサムシ	コアオマイマイカブリ	●	●	
14			コヒメヒョウタンゴミムシ	●		
15			ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ	●		
16			ヨツモンコミズギワゴミムシ	●	●	
17			ヒラタコミズギワゴミムシ	●		
18			ニッコウミズギワゴミムシ	●		
19			ヒラタアオミズギワゴミムシ	●		
20			アシミソナガゴミムシ	●		
21			ニッコウヒメナガゴミムシ	●	●	
22			ベーツナガゴミムシ	●	●	
23			チビモリヒラタゴミムシ	●		
24			キンモリヒラタゴミムシ	●		
25			コクロットヤヒラタゴミムシ	●	●	
26			クビナガゴモクムシ	●	●	
27			オオスナハラゴミムシ	●		
28			ベーツホソアトキリゴミムシ	●		
29			コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ	●	
30			ゲンゴロウ	トウホクナガケシゲンゴロウ	●	
31		クロマメゲンゴロウ		●		
32		マルガタゲンゴロウ		●		
33		クロゲンゴロウ		●		
34		ガムシ	アカケシガムシ	●	●	
35		エンマムシ	コエンマムシ	●	●	
36			ナガエンマムシ	●		
37		タマキノコムシ	チャイロヒメタマキノコムシ	●		
38			ベニモンヒゲトタマキノコムシ	●		
39		ハネカクシ	ホソヒラタハネカクシ	●		
40			キベリカワベハネカクシ	●		
41	ヤマトオオメハネカクシ		●			
42	ヤマトイクビハネカクシ		●			
43	ジョウカイモドキ	ルリヒメジョウカイモドキ	●			
44	ヒラタムシ	ベニヒラタムシ	●			
45	オオキシイムシ	ムナビロオオキシイ	●			
46	テントウムシダマシ	セグロツヤテントウダマシ	●			
47	アリモドキ	コクビソムシ	●	●		
48	カミキリムシ	ヨコヤマトラカミキリ	●			
49		ハスオビヒゲナガカミキリ	●	●		
50		クモノスモンサビカミキリ	●			
51	チョウ	ツトガ	ツマグロシロノメイガ	●		
52		セセリチョウ	スジグロチャバネセセリ	●	●	
53		アゲハチョウ	ミヤマカラスアゲハ	●		
54		シジミチョウ	ムラサキシジミ	●		
55			ウラキシジミ	●		
56			ウラナミアカシジミ	●		
57			ウラクロシジミ	●	●	
58			コツバメ	●		
59		タテハチョウ	ヒオドシチョウ	●		
60			ミスジチョウ	●		
61			オオムラサキ	●		
62			テングチョウ	●		
63		スズメガ	コウチスズメ	●		
64		シャクガ	カギバアオシャク	●		
65		シャチホコガ	アカシャチホコ	●		
計	7目	31科	65種	65	19	

●は、生息が確認されたことを示す。

(7) エゾイトトンボ

エゾイトトンボの影響予測結果と確認状況を表 6-98 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるエゾイトトンボの確認地点を図 6-92 に示した。

供用後の事後調査では調査範囲の 1 地点で本種が確認された。環境影響評価時には対象事業実施区域の [] 周辺の 1 地点で確認された。この [] は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮したため、本種の生息環境は維持されていると考えられる。以上から、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

なお、今後、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性はあるが、本事業では、水域の保全及び周辺地域との緑の連続性の確保（水と緑のネットワークの保全）を行っていく。

表 6-98 影響予測結果と確認状況（エゾイトトンボ）（昆虫類：1/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
エゾイトトンボ	工事	水生植物の繁茂する池沼に生息する種であり、保全される対象事業実施区域 [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、生息環境と考えられる池の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	1	1	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	1	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア
- H25 確認種
● エゾイトトンボ
- H17 確認種
● エゾイトトンボ

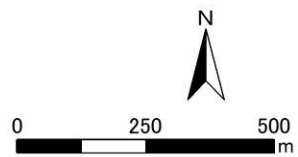


図 6-92 エゾイトトンボ確認地点

(イ) ムカシヤンマ

ムカシヤンマの影響予測結果と確認状況を表 6-99 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるムカシヤンマの確認地点を図 6-93 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された[]は改変されておらず、本種の幼虫の生育環境である水が安定して染み出す崖地や斜面といった環境は[]の谷地形に残されていると考えられるため、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。本事業では、水域の保全及び周辺地域との緑の連続性の確保（水と緑のネットワークの保全）を行っていく。

表 6-99 影響予測結果と確認状況（ムカシヤンマ）（昆虫類：2/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
ムカシヤンマ	工事	主に丘陵地、山地の滲出水のみられる斜面などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	1	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の 事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- ムカシヤンマ

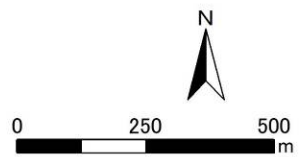


図 6-93 ムカシヤンマ確認地点

(ウ) ルリボシヤンマ

ルリボシヤンマの影響予測結果と確認状況を表 6-100 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるルリボシヤンマの確認地点を図 6-94 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域のため池周辺の1地点で確認された。供用後の事後調査では、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された[]は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。本事業では、水域の保全及び周辺地域との緑の連続性の確保（水と緑のネットワークの保全）を行っていく。

表 6-100 影響予測結果と確認状況（ルリボシヤンマ）（昆虫類：3/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域	対象事業実施
ルリボシヤンマ	工事	湿原や水深の浅い池沼などに生息する種であり、保全される対象事業実施区域[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、生息環境と考えられる池の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	1	1	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ルリボシヤンマ

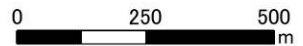


図 6-94 ルリボシヤンマ確認地点

(I) オオルリボシヤンマ

オオルリボシヤンマの影響予測結果と確認状況を表 6-101 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるオオルリボシヤンマの確認地点を図 6-95 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域のため池周辺の2地点で確認された。供用後の事後調査においても、環境影響評価時とほぼ同じ場所の1地点で本種が確認された。本種が確認された場所は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮した[]であり、本種の生息環境は維持されていると考えられる。以上から、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

なお、今後、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性はあるが、本事業では、水域の保全及び周辺地域との緑の連続性の確保（水と緑のネットワークの保全）を行っていく。

表 6-101 影響予測結果と確認状況（オオルリボシヤンマ）（昆虫類：4/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
オオルリボシヤンマ	工事	湿原や池沼に生息する種であり、保全される対象事業実施区域[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	2	2	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	1	1	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
● オオルリボシヤンマ
- H17 確認種
● オオルリボシヤンマ

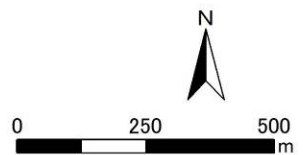


図 6-95 オオルリボシヤンマ確認地点

(オ) クロスジギンヤンマ

クロスジギンヤンマの影響予測結果と確認状況を表 6-102 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるクロスジギンヤンマの確認地点を図 6-96 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の■■■■の2地点で確認された。供用後の事後調査においても、環境影響評価時とほぼ同じ場所の1地点で本種が確認された。本種が確認された場所は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮した■■■■であり、本種の生息環境は維持されていると考えられる。なお、供用後の事後調査では、この■■■■で幼虫(ヤゴ)が確認されている。以上から、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

なお、今後、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動障害の可能性はあるが、本事業では、水域の保全及び周辺地域との緑の連続性の確保(水と緑のネットワークの保全)を行っていく。

表 6-102 影響予測結果と確認状況(クロスジギンヤンマ)(昆虫類:5/65)

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
クロスジギンヤンマ	工事	低標高地の水生植物および樹陰の豊富な池沼に生息する種であり、保全される対象事業実施区域■■■■で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、■■■■の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい(影響個体が少ないか軽減可能)	環境影響評価(H17~18)	2	2	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動障害の可能性はある。		供用後の事後調査(H25)	1	1	0

*事後調査では、幼虫(ヤゴ)により確認された。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
- クロスジギンヤンマ
- H17 確認種
- クロスジギンヤンマ

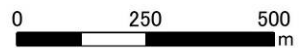


図 6-96 クロスジギンヤンマ確認地点

(カ) オオゴキブリ

オオゴキブリの影響予測結果と確認状況を表 6-103 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるオオゴキブリの確認地点を図 6-97 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認されているが、改変エリア外での確認であった。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は樹林内の朽木に生息する。本事業では既存樹林地を極力残すように配慮していることから、今回の事後調査では確認されなかったものの本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-103 影響予測結果と確認状況（オオゴキブリ）（昆虫類：6/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
オオゴキブリ	工事	樹林性で幼虫、成虫とも朽ち木中に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である ████████ で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● オオゴキブリ

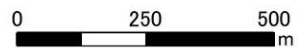


図 6-97 オオゴキブリ確認地点

(キ) エダナナフシ

エダナナフシの影響予測結果と確認状況を表 6-104 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるエダナナフシの確認地点を図 6-98 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 3 地点で確認されているが、改変エリア外での確認であった。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種の主要な生息環境は、雑木林や林縁等の樹林環境であり、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮していることから、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-104 影響予測結果と確認状況（エダナナフシ）（昆虫類：7/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
エダナナフシ	工事	雑木林などの林縁部に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である ████████ など確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	3	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- エダナナフシ

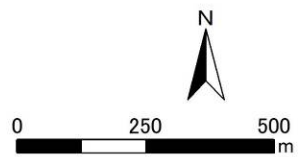


図 6-98 エダナナフシ確認地点

(ク) オオコオイムシ

オオコオイムシの影響予測結果と確認状況を表 6-105 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるオオコオイムシの確認地点を図 6-99 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 2 地点で確認された。供用後の事後調査においても、環境影響評価時とほぼ同じ場所の 3 地点で本種が確認された。供用後の事後調査で本種が確認された[]は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮しており、本種の生息環境は維持されていると考えられる。以上から、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

表 6-105 影響予測結果と確認状況（オオコオイムシ）（昆虫類：8/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
オオコオイムシ	工事	低標高地の水生植物の豊富な池沼に生息する種であり、保全される対象事業実施区域[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	2	2	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	3	3	0

注) 事後調査の確認には、幼虫による確認を含む。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
- オオコオイムシ
- H17 確認種
- オオコオイムシ

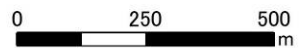


図 6-99 オオコオイムシ確認地点



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
 - ヒメオオメナガカメムシ
- H17 確認種
 - ヒメオオメナガカメムシ

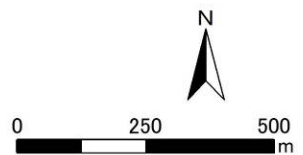


図 6-100 ヒメオオメナガカメムシ確認地点

(3) アカスジキンカメムシ

アカスジキンカメムシの影響予測結果と確認状況を表 6-107 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるアカスジキンカメムシの確認地点を図 6-101 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認されているが、改変エリア外での確認であった。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種の主要な生息環境は樹林地であり、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮していることから、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-107 影響予測結果と確認状況（アカスジキンカメムシ）（昆虫類：10/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
アカスジキンカメムシ	工事	ミズキやコナラを好み、丘陵地や低山地の樹林に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● アカスジキンカメムシ

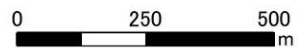


図 6-101 アカスジキンカメムシ確認地点

(4) オオツノトンボ

オオツノトンボの影響予測結果と確認状況を表 6-108 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるオオツノトンボの確認地点を図 6-102 に示した。

環境影響評価時には、改変エリアの1地点を含む対象事業実施区域の2地点で確認された。供用後の事後調査でも同様に、改変エリアの1地点を含む3地点で確認された。本種は、丘陵地や草原等のやや明るい環境に生息する。供用後においても対象事業実施区域では広く同様の環境が残されており、また本種が改変エリアで確認されていることから、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

なお、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性があるが、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-108 影響予測結果と確認状況 (オオツノトンボ) (昆虫類 : 11/65)

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
オオツノトンボ	工事	丘陵地、山地の草原など、やや明るい環境に生息する種であり、非改変エリアである [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	2	2	1*1
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	3	3	1

*1 評価書では改変エリア内で確認されていないと記載されたが、再度、調査データを精査した結果、1地点での確認であった。



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
● オオツノトンボ
- H17 確認種
● オオツノトンボ

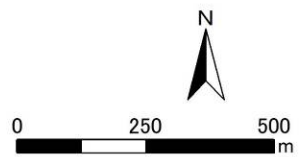


図 6-102 オオツノトンボ確認地点



注目すべき種の保護の目的から、確認位置に係る情報は公表しないこととしております。

凡例

対象事業実施区域

調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)

改変エリア

H25 確認種

● マガタマハンミョウ

H17 確認種

● マガタマハンミョウ



図 6-103 マガタマハンミョウ確認地点

(ス) コアオマイマイカブリ

コアオマイマイカブリの影響予測結果と確認状況を表 6-110 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるコアオマイマイカブリの確認地点を図 6-104 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では調査範囲の 2 地点で確認された。本種は主に山地や丘陵地の樹林に生息する。環境影響評価時に確認された地点が改変エリアから [REDACTED] 以上離れていること、供用後の事後調査において対象事業実施区域で確認されていることから、事業による本種への影響は、予測結果のとおりほとんどなかったと考えられる。

表 6-110 影響予測結果と確認状況（コアオマイマイカブリ）（昆虫類：13/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
コアオマイマイカブリ	工事	おもに山地、丘陵地の樹林内などのやや湿った環境に生息する種であり、非改変エリアである [REDACTED] において確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	2	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
- コアオマイマイマブリ
- H17 確認種
- コアオマイマイカブリ

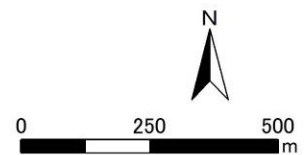


図 6-104 コアオマイマイカブリ確認地点

(セ) コヒメヒョウタンゴミムシ

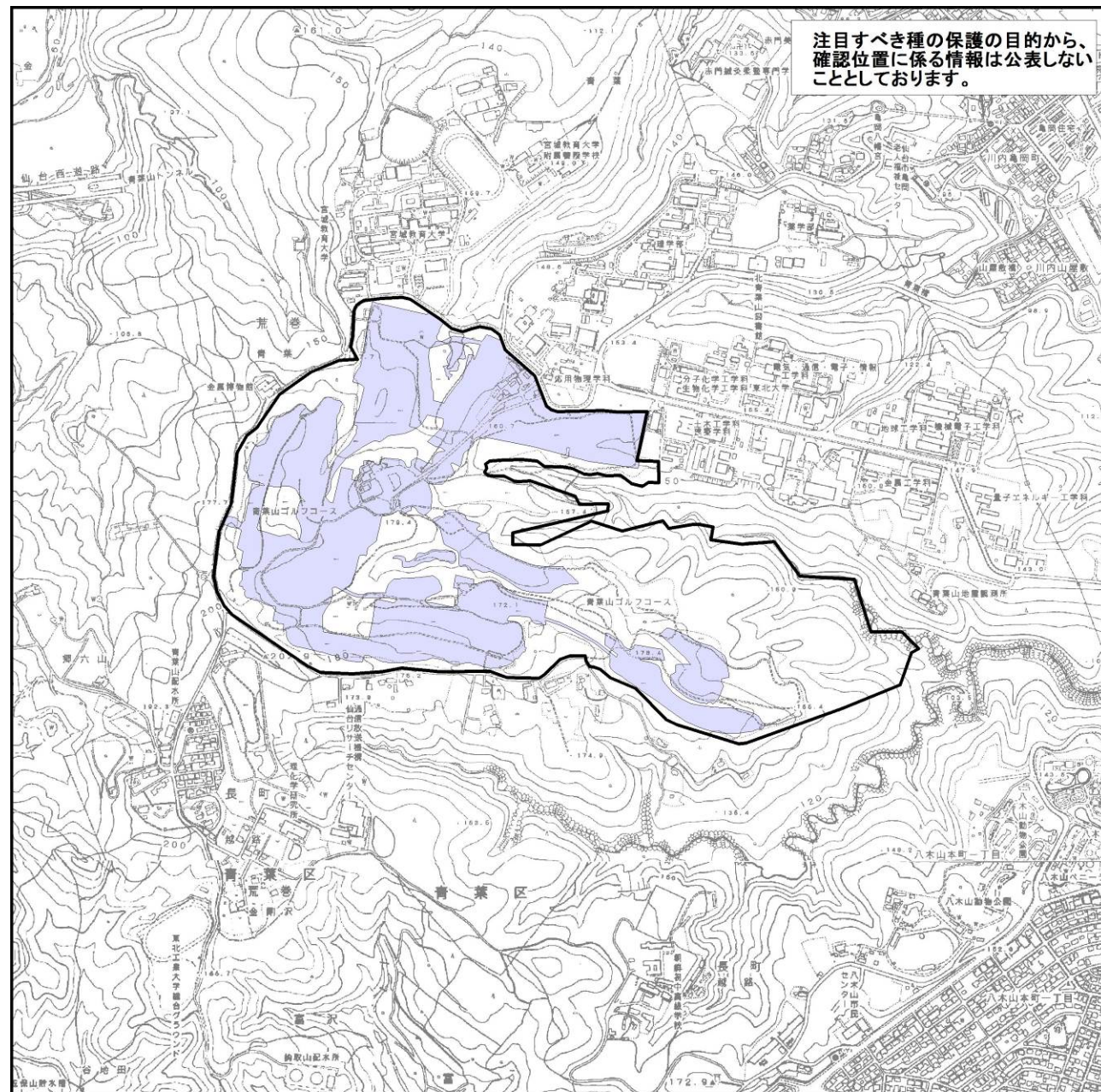
コヒメヒョウタンゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-111 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるコヒメヒョウタンゴミムシの確認地点を図 6-105 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の落葉広葉樹林内に設置したライトトラップにより本種を確認した。供用後の事後調査では、環境影響評価時とはほぼ同じ地点でライトトラップを実施したが、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は湿地の周囲の泥質地等を主な生息地とする。本事業では水域の保全及び周辺地域との緑の連続性の確保（水と緑のネットワークの保全）を行っており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-111 影響予測結果と確認状況（コヒメヒョウタンゴミムシ）（昆虫類：14/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
コヒメヒョウタンゴミムシ	工事	湿地の周囲や海岸などに生息する種であり、非改変エリアである対象事業実施区域 [] に任意に設置した [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい（影響個体が少ないか軽減可能）	環境影響評価（H17～18）	1	1	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査（H25）	0	0	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 変更エリア

H17 確認種
● コヒメヒョウタンゴミムシ

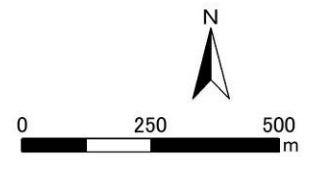


図 6-105 コヒメヒョウタンゴミムシ確認地点

(7) ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ

ダイミョウチビヒョウタンゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-112 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるダイミョウチビヒョウタンゴミムシの確認地点を図 6-106 に示した。

環境影響評価時には、XXXXXXXXXXの草地に設置したライトトラップにより本種を確認した。供用後の事後調査では、環境影響評価時とほぼ同じ地点でライトトラップを実施したが、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種の生息環境である草地は、造成工事により大部分が消失したが、改変エリアの周辺に草地が残存しているほか、ヒメオオメナガカメムシなど本種と同様の生態を持ち草地や畑地に生息する種が改変エリア周辺で確認されていることから、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。

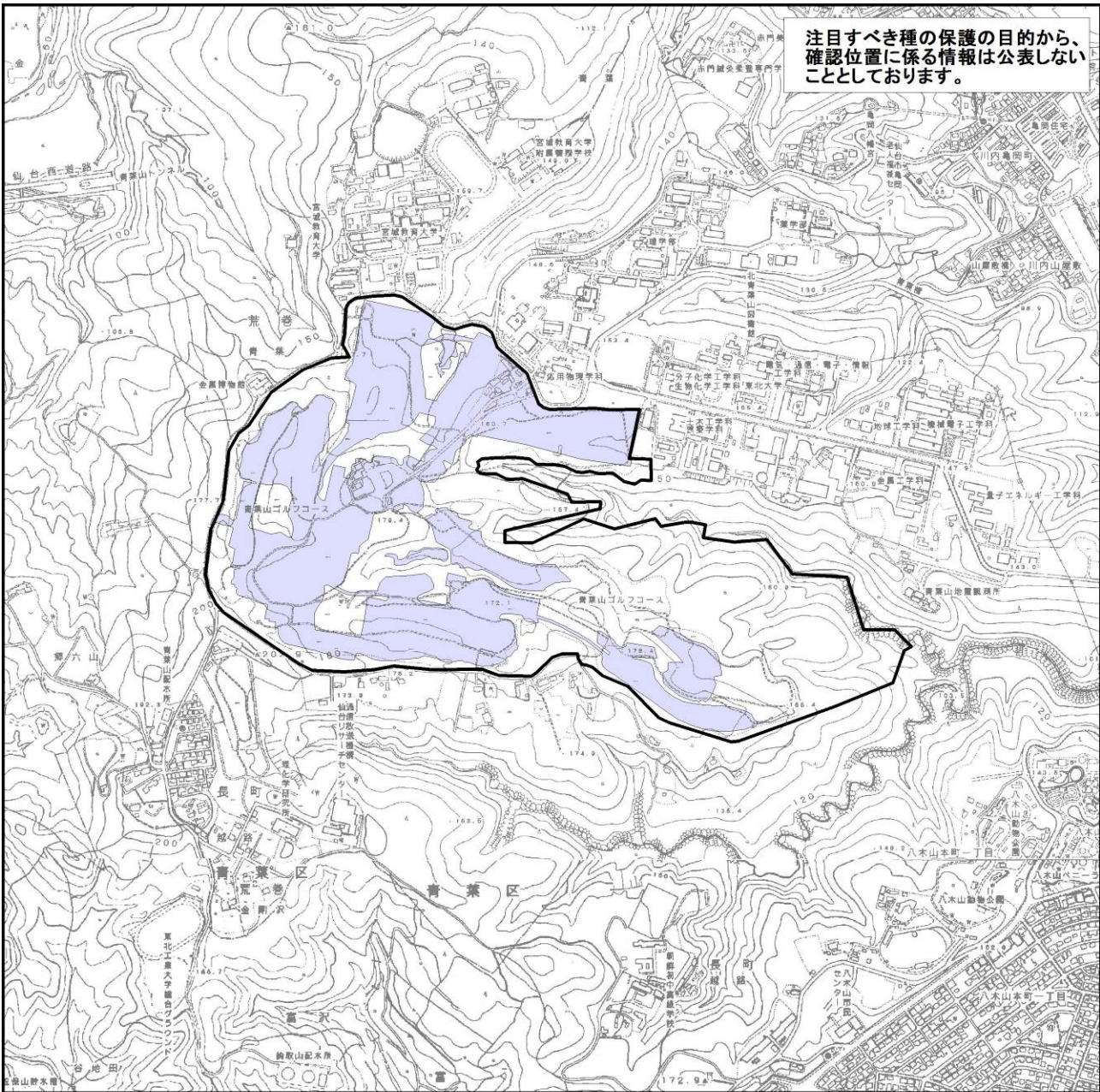
本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-112 影響予測結果と確認状況（ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ）（昆虫類：15/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ	工事	畑地などに生息する種であり、非改変エリアである XXXXXXXXXX XXXXXXXXXX で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	1	1	1*1
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0

*1 評価書では改変エリア内で確認されていないと記載されたが、再度、調査データを精査した結果、1地点での確認であった。

注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 変更エリア

H17 確認種

- ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ

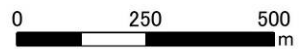


図 6-106 ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ確認地点

(4) ニッコウミズギワゴミムシ

ニッコウミズギワゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-113 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるニッコウミズギワゴミムシの確認地点を図 6-107 に示した。

環境影響評価時にはため池の水際に設置したベイトトラップにより本種を確認した。供用後の事後調査では、環境影響評価時とほぼ同じ地点でベイトトラップを行ったが、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認されたため池は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮したため、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。また、本事業では水域の保全及び周辺地域との緑の連続性の確保（水と緑のネットワークの保全）を今後とも行っていく。

表 6-113 影響予測結果と確認状況（ニッコウミズギワゴミムシ）（昆虫類：16/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
ニッコウミズギワゴミムシ	工事	おもに水際に生息する種であり、保全される[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい（影響個体が少ないか軽減可能）	環境影響評価（H17～18）	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査（H25）	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ニッコウミズギワゴミムシ

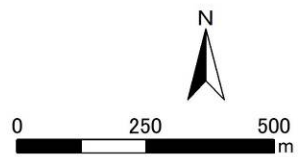


図 6-107 ニッコウミズギワゴミムシ確認地点

(f) ヒラタアオミズギワゴミムシ

ヒラタアオミズギワゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-114 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヒラタアオミズギワゴミムシの確認地点を図 6-108 に示した。

環境影響評価時には、調査範囲内の 2 地点で本種を確認した。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された地点は、[] であり改変エリアから [] 離れている。また、環境影響評価時に本種の生息を確認した [] は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-114 影響予測結果と確認状況（ヒラタアオミズギワゴミムシ）（昆虫類：17/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ヒラタアオミズギワゴミムシ	工事	山地の沢筋などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域の [] や保全される対象事業実施区域 [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、生息環境の一つであると考えられる池の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	2	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- ヒラタアオミズギワゴミムシ

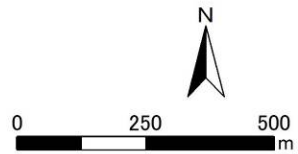


図 6-108 ヒラタアオミズギワゴミムシ確認地点

(ツ) ヒラタコミズギワゴミムシ

ヒラタコミズギワゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-115 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヒラタコミズギワゴミムシの確認地点を図 6-109 に示した。

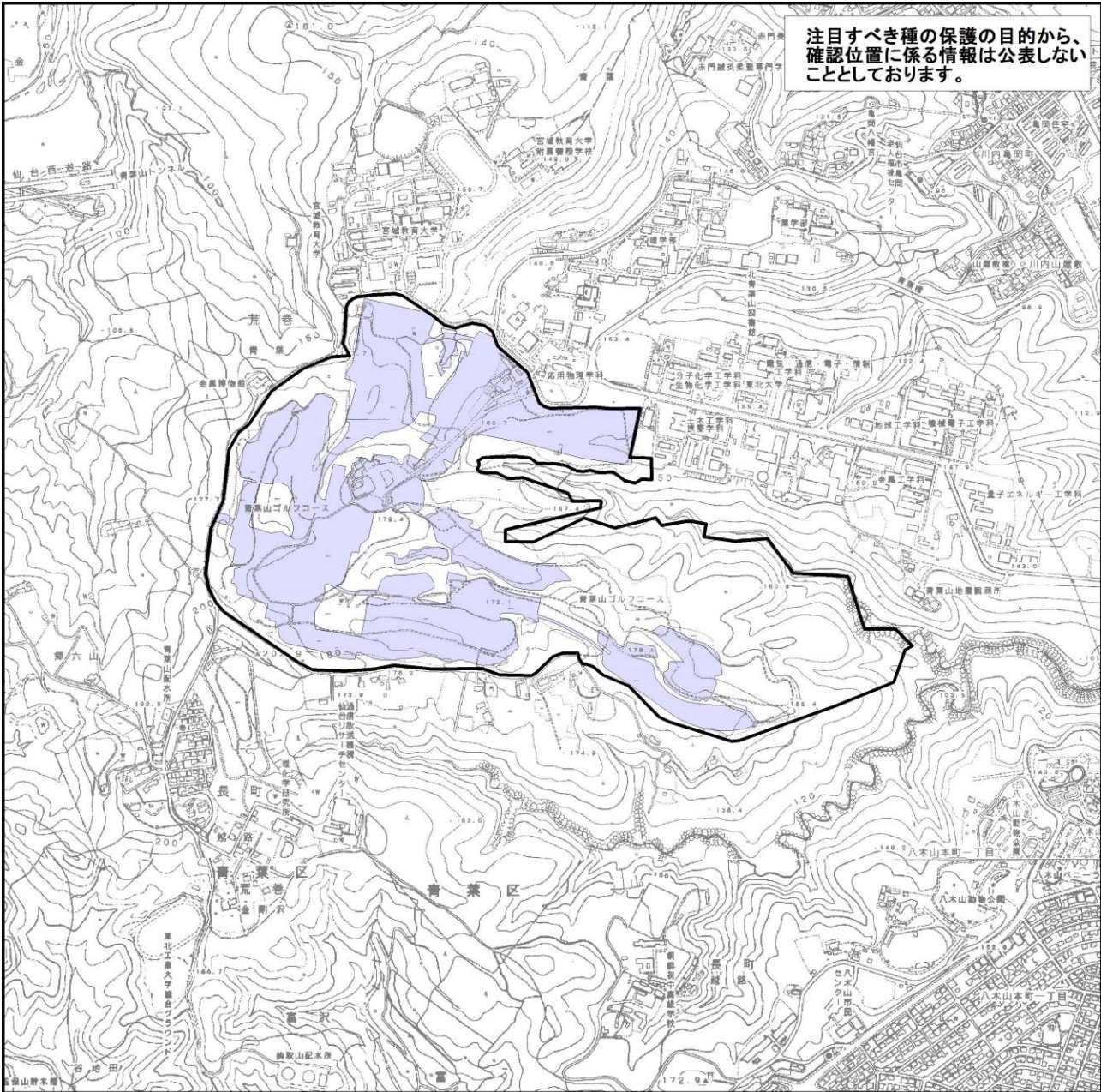
環境影響評価時には、調査範囲の 2 地点で確認した。供用後の事後調査では、環境影響評価時とほぼ同じ地点でライトトラップを行ったが、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種の生息を確認した[]に近い沢筋は、改変エリアから []以上離れており、生息環境は維持されていると考えられる。また、環境影響評価時に本種の生息を確認した[]は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-115 影響予測結果と確認状況（ヒラタコミズギワゴミムシ）（昆虫類：18/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
ヒラタコミズギワゴミムシ	工事	おもに河原などの水辺にみられる種であり、対象事業実施区域の周辺地域および非改変エリアである[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい（影響個体が少ないか軽減可能）	環境影響評価（H17～18）	2	1	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査（H25）	0	0	0

注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 変更エリア

H17 確認種
● ヒラタコミズギワゴミムシ

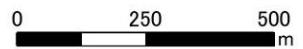


図 6-109 ヒラタコミズギワゴミムシ確認地点

(7) ヨツモンコミズギワゴミムシ

ヨツモンコミズギワゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-116 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヨツモンコミズギワゴミムシの確認地点を図 6-110 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 2 地点で本種を確認した。供用後の事後調査では、対象事業実施区域の 5 地点で本種を確認した。本種は様々な水際環境に生息する。環境影響評価時に本種の生息を確認したライトトラップ付近のため池は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮したため、本種の生息環境は維持されていると考えられる。以上より、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

なお、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性があるが、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-116 影響予測結果と確認状況（ヨツモンコミズギワゴミムシ）（昆虫類：19/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ヨツモンコミズギワゴミムシ	工事	水際などに生息する種であり、非改変エリアである [REDACTED] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、生息環境の一つであると考えられる池の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	2	2	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	5	5	2



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
- ヨツモンコムズギワゴミムシ
- H17 確認種
- ヨツモンコムズギワゴミムシ

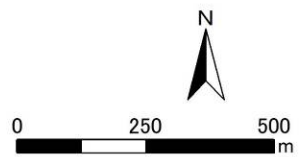


図 6-110 ヨツモンコムズギワゴミムシ確認地点

(ト) ベーツナガゴミムシ

ベーツナガゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-117 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるベーツナガゴミムシの確認地点を図 6-111 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 2 地点で本種を確認した。供用後の事後調査では、調査範囲の 3 地点で本種を確認した。本種は山地の沢筋や林床等に生息する。環境影響評価時の確認地点が改変エリアから [REDACTED] 離れており、事業の影響はほとんどなかったと考えられる。また、供用後の事後調査において改変エリアに近接する地点においても本種が確認された。以上のことから、事業による本種への影響は、予測結果のとおりほとんどなかったと考えられる。

表 6-117 影響予測結果と確認状況（ベーツナガゴミムシ）（昆虫類：20/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ベーツナガゴミムシ	工事	山地の沢筋、林床、石下などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [REDACTED] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	2	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	3	1	1



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H25 確認種

- ベーツナガゴミムシ

H17 確認種

- ベーツナガゴミムシ

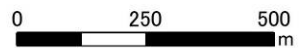


図 6-111 ベーツナガゴミムシ確認地点

(f) ニッコウヒメナガゴミムシ

ニッコウヒメナガゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-118 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるニッコウヒメナガゴミムシの確認地点を図 6-112 に示した。

環境影響評価時には、調査範囲の 4 地点で確認された。供用後の事後調査においても、調査範囲の 4 地点で確認された。本種は主に林床や石下に生息する。環境影響評価時の確認地点付近で供用後の事後調査においても確認されていること、また環境影響評価時及び供用後の事後調査における確認地点が改変エリアから [REDACTED] 以上離れていることから、事業による本種への影響は、予測結果のとおりほとんどなかったと考えられる。

表 6-118 影響予測結果と確認状況（ニッコウヒメナガゴミムシ）（昆虫類：21/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ニッコウヒメナガゴミムシ	工事	林床や石下などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域および非改変エリアである [REDACTED] [REDACTED] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	4	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	4	0	0



注目すべき種の保護の目的から、確認位置に係る情報は公表しないこととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
- ニッコウヒメナガゴミムシ
- H17 確認種
- ニッコウヒメナガゴミムシ

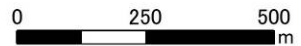


図 6-112 ニッコウヒメナガゴミムシ確認地点

(二) アシミゾナガゴミムシ

アシミゾナガゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-119 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるアシミゾナガゴミムシの確認地点を図 6-113 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域に[]に設置したベイトトラップにより本種を確認した。供用後の事後調査では、環境影響評価時とほぼ同じ地点でベイトトラップを行ったが、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種の主要な生息環境は、湿地あるいは池周辺等であり、本事業では水域の保全及び周辺地域との緑の連続性の確保（水と緑のネットワークの保全）を行っていることから、本種の生息環境である湿地や池周辺等の環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-119 影響予測結果と確認状況（アシミゾナガゴミムシ）（昆虫類：22/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
アシミゾナガゴミムシ	工事	平地の湿地などに生息する種であり、非改変エリアである[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● アシミゾナガゴミムシ

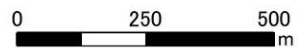


図 6-113 アシミゾナガゴミムシ確認地点

(ヌ) チビモリヒラタゴミムシ

チビモリヒラタゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-120 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるチビモリヒラタゴミムシの確認地点を図 6-114 に示した。

環境影響評価時には[]の調査範囲の樹林内 5 地点で本種が確認された。供用後の事後調査においては、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は樹林に生息し、環境影響評価時に確認された 5 地点のうち、4 地点は事業により改変されない[]であったほか、残る 1 地点は改変エリアから []以上離れている。また、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、本種の生息する樹林は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-120 影響予測結果と確認状況 (チビモリヒラタゴミムシ) (昆虫類 : 23/65)

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	域対象事業実施区	改変エリア
チビモリヒラタゴミムシ	工事	樹林などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] や非改変エリアである [] のコナラ林で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17~18)	5	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● チビモリヒラタゴミムシ

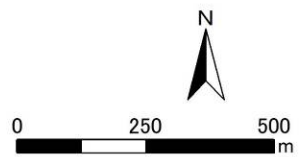


図 6-114 チビモリヒラタゴミムシ確認地点

(ホ) キンモリヒラタゴミムシ

キンモリヒラタゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-121 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるキンモリヒラタゴミムシの確認地点を図 6-115 に示した。

環境影響評価時には、調査範囲の3地点で確認された。供用後の事後調査においては、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された地点は、改変エリアから■■■■以上離れている。また、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、本種の生息環境となる樹林も維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-121 影響予測結果と確認状況（キンモリヒラタゴミムシ）（昆虫類：24/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	域対象事業実施区	改変エリア
キンモリヒラタゴミムシ	工事	樹林などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域および非改変エリアである■■■■や対象事業実施区域■■■■のコナラ林で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17~18)	3	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- キンモリヒラタゴミムシ

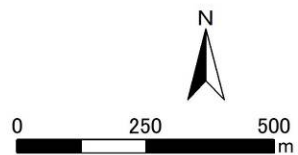


図 6-115 キンモリヒラタゴミムシ確認地点

(ノ) コクロツヤヒラタゴミムシ

コクロツヤヒラタゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-122 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるコクロツヤヒラタゴミムシの確認地点を図 6-116 に示した。

環境影響評価時には、調査範囲の 2 地点で本種を確認した。供用後の事後調査では、調査範囲の 2 地点で本種を確認した。本種は主に石下等の物陰に生息する。環境影響評価時及び供用後の事後調査における確認地点が、改変エリアから [REDACTED] 以上離れていること、事後調査においても確認されていることから、事業による本種への影響は、予測結果のとおりほとんどなかったと考えられる。

表 6-122 影響予測結果と確認状況（コクロツヤヒラタゴミムシ）（昆虫類：25/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
コクロツヤヒラタゴミムシ	工事	おもに物陰や石下などに生息する種であり、ベイトトラップ調査で対象事業実施区域の周辺地域である [REDACTED] と非改変エリアである [REDACTED] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	2	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	2	0	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
- コクロツヤヒラタゴミムシ
- H17 確認種
- コクロツヤヒラタゴミムシ

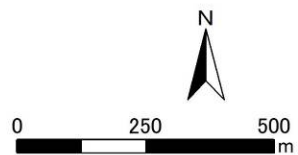


図 6-116 コクロツヤヒラタゴミムシ確認地点

(ハ) クビナガゴモクムシ

クビナガゴモクムシの影響予測結果と確認状況を表 6-123 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるクビナガゴモクムシの確認地点を図 6-117 に示した。

環境影響評価時には、調査範囲の 2 地点で確認された。供用後の事後調査では対象事業実施区域の 1 地点で確認された。本種は主に林床や石下に生息する。環境影響評価時に本種が確認された地点は変更エリアから [] 離れており、事業の影響はほとんどないと考えられる。また、供用後の事後調査においては変更エリアに近接する地点においても本種が確認された。以上のことから、事業による本種への影響は、予測結果のとおりほとんどなかったと考えられる。

表 6-123 影響予測結果と確認状況（クビナガゴモクムシ）（昆虫類：26/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	変更エリア
クビナガゴモクムシ	工事	おもに林床や石下に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] や非変更エリアである対象事業実施区域 [] のコナラ林で確認されている。変更エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の変更による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	2	1	0
	存在・供用	変更エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	1	1	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
- クビナガゴモクムシ
- H17 確認種
- クビナガゴモクムシ

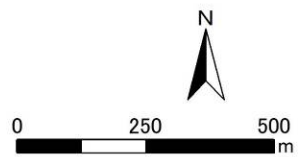


図 6-117 クビナガゴモクムシ確認地点

(七) オオスナハラゴミムシ

オオスナハラゴミムシの影響予測結果と確認状況を表 6-124 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるオオスナハラゴミムシの確認地点を図 6-118 に示した。

環境影響評価時には、調査範囲の[]に設置したベイトトラップで本種の生息を確認した。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された地点は、改変エリアから[]離れた[]であった。また、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、本種の生息環境となる樹林も維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-124 影響予測結果と確認状況（オオスナハラゴミムシ）（昆虫類：27/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	域対象事業実施区	改変エリア
オオスナハラゴミムシ	工事	対象事業実施区域の周辺地域である[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17~18)	1	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● オオスナハラゴミムシ

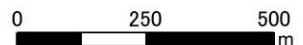


図 6-118 オオスナハラゴミムシ確認地点



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ベーツホソアトキリゴミムシ

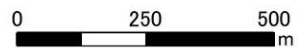


図 6-119 ベーツホソアトキリゴミムシ確認地点

(ハ) マダラコガシラミズムシ

マダラコガシラミズムシの影響予測結果と確認状況を表 6-126 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるマダラコガシラミズムシの確認地点を図 6-120 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域のため池周辺のライトトラップで確認された。供用後の事後調査では、環境影響評価時とほぼ同じ場所でライトトラップを行ったが、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された[]は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-126 影響予測結果と確認状況（マダラコガシラミズムシ）（昆虫類：29/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
マダラコガシラミズムシ	工事	おもに平地の水生植物の豊富な池沼に生息する種であり、保全される対象事業実施区域[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい（影響個体が少ないか軽減可能）	環境影響評価（H17～18）	1	1	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査（H25）	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- マダラコガシラミズムシ

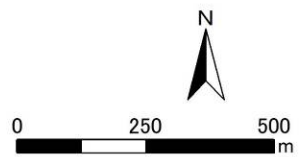


図 6-120 マダラコガシラミズムシ確認地点

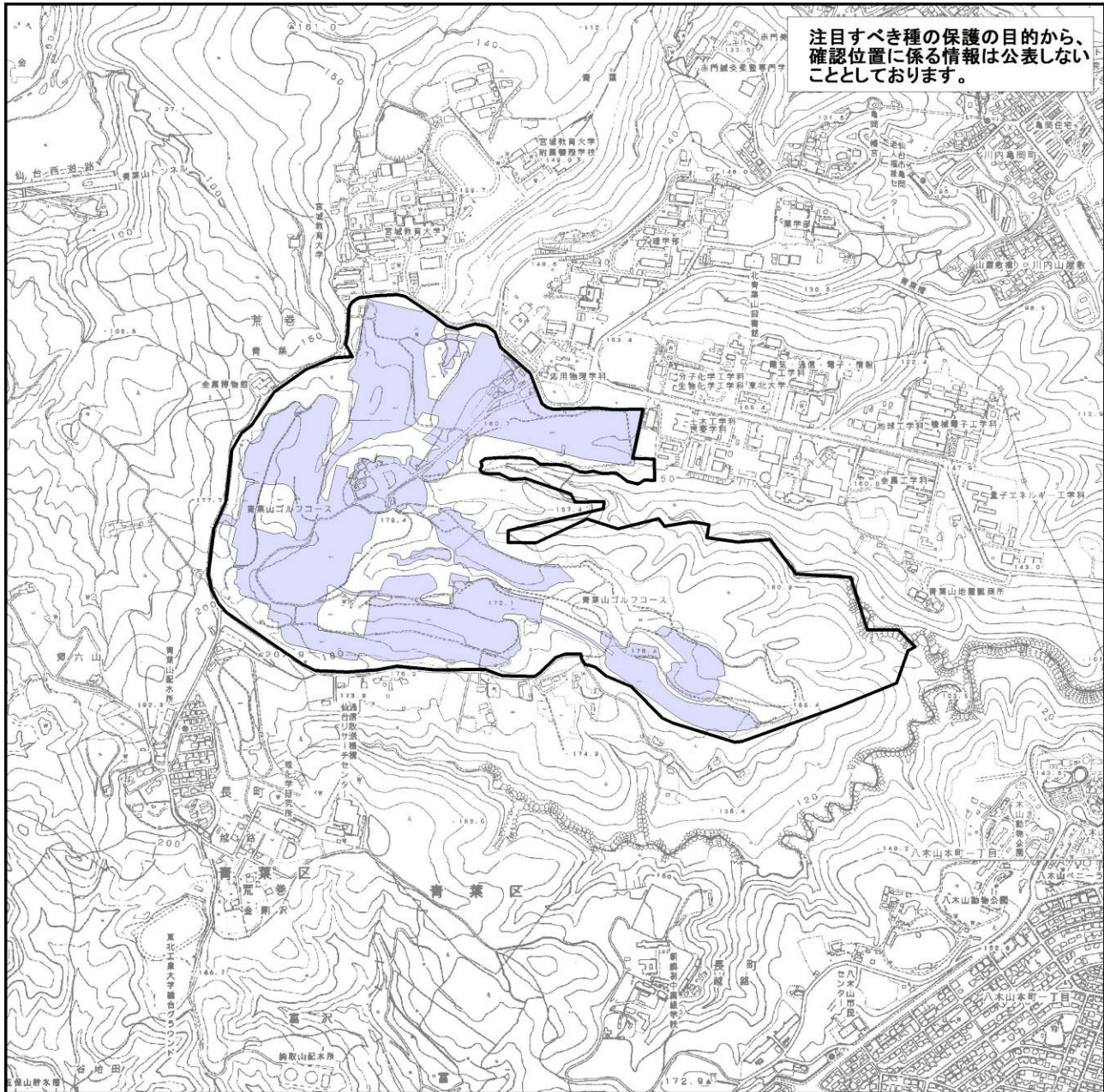
(ホ) トウホクナガケシゲンゴロウ

トウホクナガケシゲンゴロウの影響予測結果と確認状況を表 6-127 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるトウホクナガケシゲンゴロウの確認地点を図 6-121 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 2 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された[]は、環境保全措置の一環として周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-127 影響予測結果と確認状況（トウホクナガケシゲンゴロウ）（昆虫類：30/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
トウホクナガケシゲンゴロウ	工事	池などの止水域に生息する種であり、保全される対象事業実施区域[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	2	2	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● トウホクナガケシゲンゴロウ

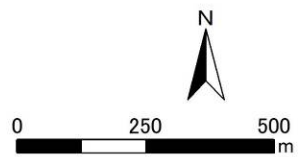


図 6-121 トウホクナガケシゲンゴロウ確認地点

(マ) クロマメゲンゴロウ

クロマメゲンゴロウの影響予測結果と確認状況を表 6-128 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるクロマメゲンゴロウの確認地点を図 6-122 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された[]は、環境保全措置の一環として周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-128 影響予測結果と確認状況（クロマメゲンゴロウ）（昆虫類：31/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
クロマメゲンゴロウ	工事	溪流の石下、落葉下やわき水により形成された浅い水域などに生息する種であり、保全される対象事業実施区域[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● クロマメゲンゴロウ

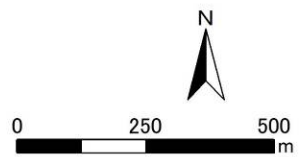


図 6-122 クロマメゲンゴロウ確認地点

(ミ) クロゲンゴロウ

クロゲンゴロウの影響予測結果と確認状況を表 6-129 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるクロゲンゴロウの確認地点を図 6-123 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された[]は、環境保全措置の一環として周辺の樹林地も含めて改変しないように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-129 影響予測結果と確認状況 (クロゲンゴロウ) (昆虫類 : 32/65)

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
クロゲンゴロウ	工事	水生植物が豊富な池沼などに生息する種であり、保全される対象事業実施区域[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● クロゲンゴロウ

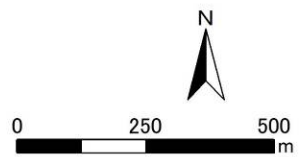


図 6-123 クロゲンゴロウ確認地点

(4) マルガタゲンゴロウ

マルガタゲンゴロウの影響予測結果と確認状況を表 6-130 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるマルガタゲンゴロウの確認地点を図 6-124 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された[]は、環境保全措置の一環として周辺の樹林地も含めて改変しないように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-130 影響予測結果と確認状況（マルガタゲンゴロウ）（昆虫類：33/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
マルガタゲンゴロウ	工事	水生植物が豊富な池沼などに生息する種であり、保全される対象事業実施区域[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測されるが、[]の周囲が改変されることから、モニタリング調査が必要である。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● マルガタゲンゴロウ

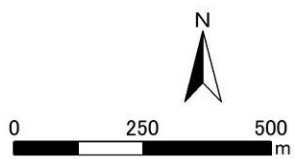


図 6-124 マルガタゲンゴロウ確認地点

(メ) アカケシガムシ

アカケシガムシの影響予測結果と確認状況を表 6-131 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるアカケシガムシの確認地点を図 6-125 に示した。

環境影響評価時には、改変エリア 1 地点を含む調査範囲の 4 地点で確認された。供用後の事後調査においても同様に、改変エリア 1 地点を含む調査範囲の 4 地点で確認された。本種は様々な有機物に集まる他、灯火にもよく集まる。供用後の事後調査では環境影響評価時と同様に対象事業実施区域と調査範囲の広い範囲で確認されており、事業による本種への影響はほとんどなかったと考えられる。

なお、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性があるが、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-131 影響予測結果と確認状況（アカケシガムシ）（昆虫類：34/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
アカケシガムシ	工事	有機物などに集まる種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [redacted]や非改変エリアの [redacted]などで確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	4	2	1*1
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	4	3	0

*1 評価書では改変エリア内で確認されていないと記載されたが、再度、調査データを精査した結果、1 地点での確認であった。



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
- アカケシガムシ
- H17 確認種
- アカケシガムシ

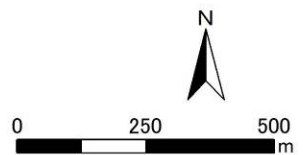


図 6-125 アカケシガムシ確認地点

(㉞) コエンマムシ

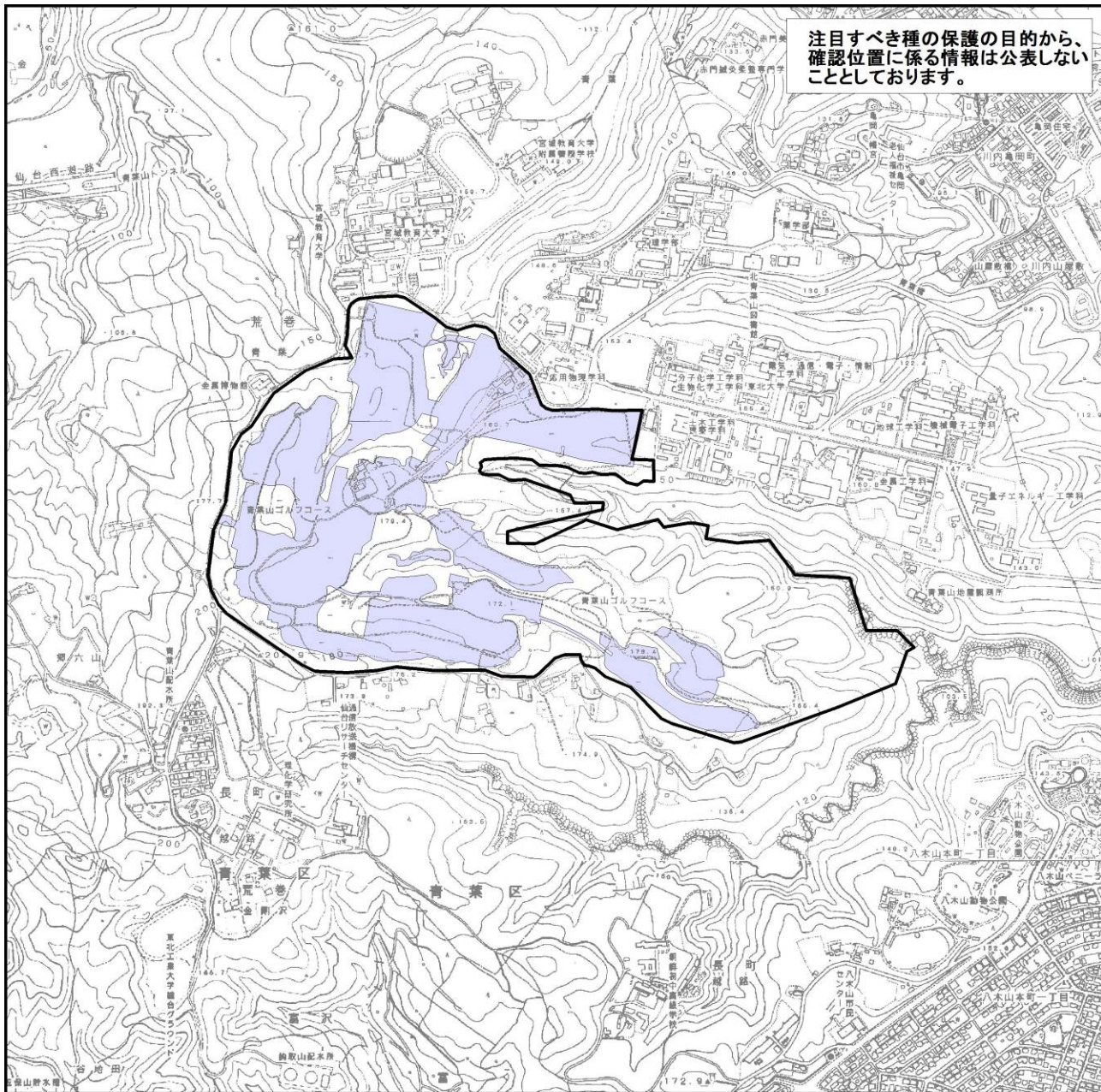
コエンマムシの影響予測結果と確認状況を表 6-132 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるコエンマムシの確認地点を図 6-126 に示した。

環境影響評価時には、改変エリア 1 地点を含む調査範囲 4 地点で確認された。供用後の事後調査では対象事業実施区域の 1 地点で確認された。本種は獣糞や腐敗した有機体に集まり樹林から草地まで様々な環境に生息する。供用後の事後調査では環境影響評価時より確認数は減少しているが、同様に対象事業実施区域で確認されていることから、事業による影響は小さかったと考えられる。ただし、環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避し個体数を減らした可能性は否定できない。

表 6-132 影響予測結果と確認状況（コエンマムシ）（昆虫類：35/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
コエンマムシ	工事	有機物などに集まる種であり、改変エリアである対象事業実施区域■■■■のシバ草地のほか、対象事業実施区域の周辺地域である■■■■や非改変エリアである対象事業実施区域■■■■のコナラ林などで確認されている。造成により改変エリア内の生息環境が消失するが、対象事業実施区域の周辺や非改変エリアにも同様の環境が存在し、本種の生息が確認されていることから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	4	3	1*1
	存在・供用	同様の生息環境が存在する対象事業実施区域の周辺地域および非改変エリアでは影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	1	1	0

*1 評価書では改変エリア内で確認されていないと記載されたが、再度、調査データを精査した結果、1 地点での確認であった。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
● コエンマムシ
- H17 確認種
● コエンマムシ

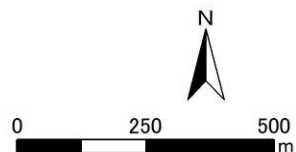


図 6-126 コエンマムシ確認地点

(ヤ) ナガエンマムシ

ナガエンマムシの影響予測結果と確認状況を表 6-133 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるナガエンマムシの確認地点を図 6-127 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は主に樹林に生息し、朽木の樹皮下等で見られる。本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されていないものの、本種が生息する朽木が多く見られる樹林地も維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-133 影響予測結果と確認状況 (ナガエンマムシ) (昆虫類 : 36/65)

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ナガエンマムシ	工事	おもに樹林内の朽ち木の樹皮下などに生息する種であり、非改変エリアである対象事業実施区域 [REDACTED] のアカマツ林で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17~18)	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- ナガエンマムシ

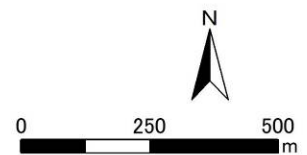


図 6-127 ナガエンマムシ確認地点



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● チャイロヒメタマキノコムシ

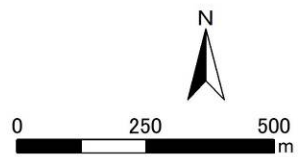


図 6-128 チャイロヒメタマキノコムシ確認地点

(3) ベニモンヒゲブトタマキノコムシ

ベニモンヒゲブトタマキノコムシの影響予測結果と確認状況を表 6-135 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるベニモンヒゲブトタマキノコムシの確認地点を図 6-129 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は主に朽木に生えたキノコ等で見られる。本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種が生息するキノコ類が多く見られる樹林地も維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-135 影響予測結果と確認状況（ベニモンヒゲブトタマキノコムシ）（昆虫類：38/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業 実施	変更 エリア
ベニモンヒゲ ブトタマキノ コムシ	工事	朽ち木に生えたキノコなどにみられる種であり、非変更エリアである対象事業実施区域■■■■のアカマツ林で確認されている。変更エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の変更による影響は少ないものと予測される。	ほとんど 影響なし	環境影響 評価 (H17 ~18)	1	1	0
	存在・ 供用	変更エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の 事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ベニモンヒゲブトタマキノコムシ

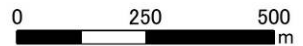


図 6-129 ベニモンヒゲブトタマキノコムシ確認地点

(5) ホソヒラタハネカクシ

ホソヒラタハネカクシの影響予測結果と確認状況を表 6-136 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるホソヒラタハネカクシの確認地点を図 6-130 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 2 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は樹林内の樹皮下に生息し、環境影響評価時に本種が確認された地点は、改変エリアから [REDACTED] 以上離れている。また、本種は主に樹林内の樹皮下に生息するが、本事業では既存の樹林地を極力残すよう配慮している。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で低減が図られていると考えられる。

表 6-136 影響予測結果と確認状況（ホソヒラタハネカクシ）（昆虫類：39/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ホソヒラタハネカクシ	工事	樹皮下などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [REDACTED] などで確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	2	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- ホソヒラタハネカクシ

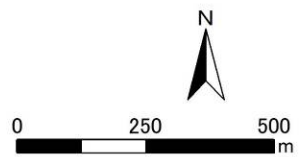


図 6-130 ホソヒラタハネカクシ確認地点

(リ) キベリカワベハネカクシ

キベリカワベハネカクシの影響予測結果と確認状況を表 6-137 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるキベリカワベハネカクシの確認地点を図 6-131 に示した。

環境影響評価時には、ため池周囲に設置されたライトトラップなど調査範囲の 3 地点で本種の生息が確認された。供用後の事後調査では、環境影響評価時とほぼ同じ地点でライトトラップを行ったが、本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に本種が確認された[]は、環境保全措置の一環として、周辺の樹林部も含めて改変しないように配慮したため、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-137 影響予測結果と確認状況（キベリカワベハネカクシ）（昆虫類：40/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業 実施	改変 エリア
キベリカワベハネカクシ	工事	対象事業実施区域の周辺地域である [] や非改変エリアである [] など確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	3	2	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- キベリカワベハネカクシ

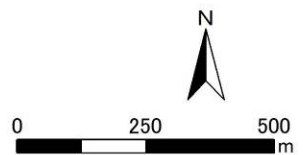


図 6-131 キベリカワベハネカクシ確認地点

(㊦) ヤマトオオメハネカクシ

ヤマトオオメハネカクシの影響予測結果と確認状況を表 6-138 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヤマトオオメハネカクシの確認地点を図 6-132 に示した。

環境影響評価時には、調査範囲 4 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は、主に樹林に生息し、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-138 影響予測結果と確認状況（ヤマトオオメハネカクシ）（昆虫類：41/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業 実施	変更 エリア
ヤマトオオメハネカクシ	工事	樹林などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である■のモミ林や非変更エリアである対象事業実施区域■のコナラ林などで確認されている。変更エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の変更による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	4	2	0
	存在・供用	変更エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ヤマトオオメハネカクシ

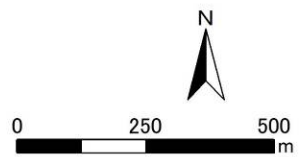


図 6-132 ヤマトオオメハネカクシ確認地点

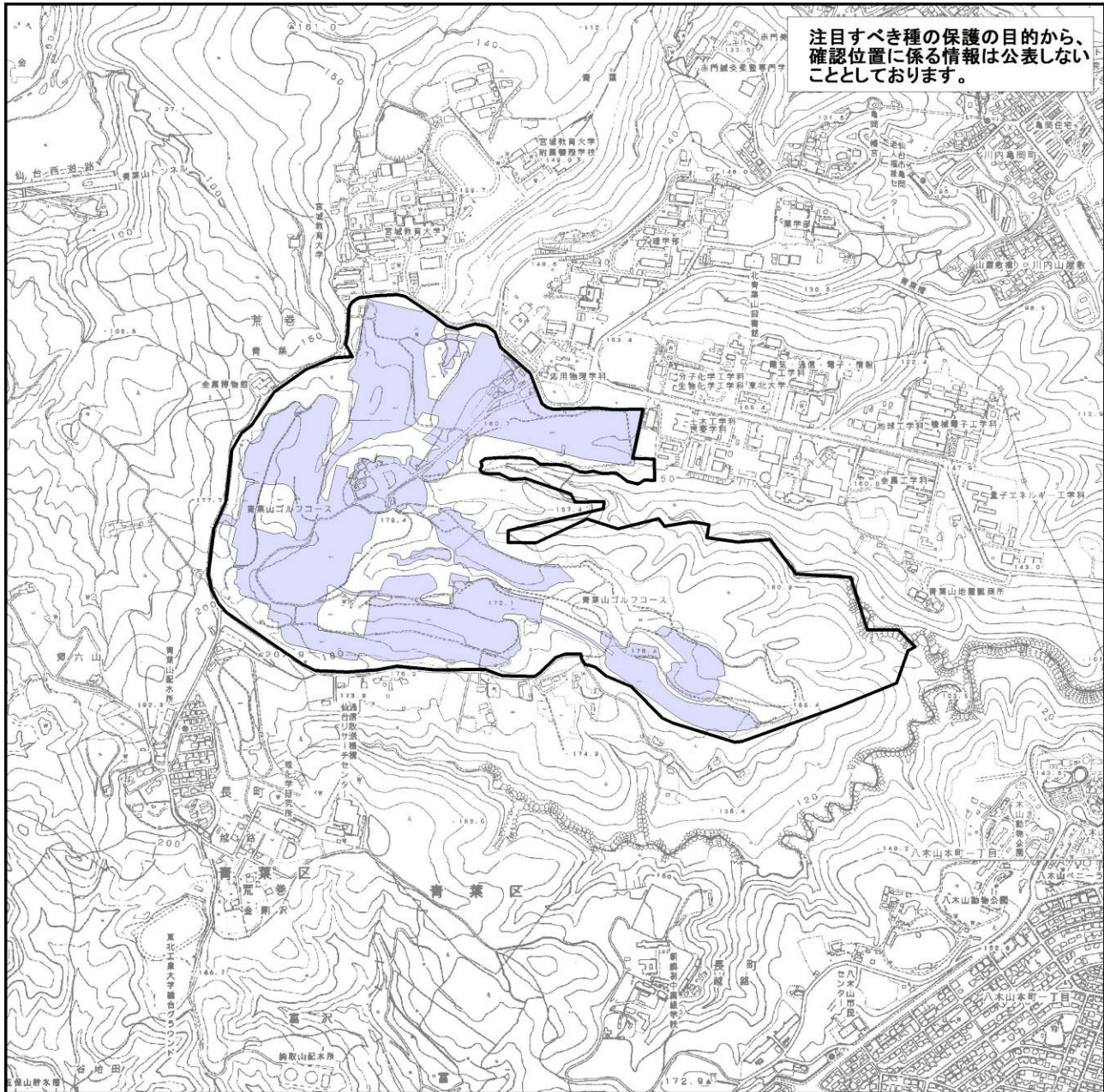
(h) ヤマトイクビハネカクシ

ヤマトイクビハネカクシの影響予測結果と確認状況を表 6-139 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヤマトイクビハネカクシの確認地点を図 6-133 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、環境影響評価時に確認された地点は、事業で改変されない[]である。また、本種は樹林内の朽木の中等に生息するが、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-139 影響予測結果と確認状況（ヤマトイクビハネカクシ）（昆虫類：42/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ヤマトイクビハネカクシ	工事	朽ち木の中などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である[]で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 変更エリア

H17 確認種
● ヤマトイクビハネカクシ

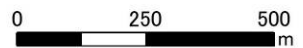


図 6-133 ヤマトイクビハネカクシ確認地点

(ロ) ルリヒメジョウカイモドキ

ルリヒメジョウカイモドキの影響予測結果と確認状況を表 6-140 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるルリヒメジョウカイモドキの確認地点を図 6-134 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種の生息環境である草地は、造成工事により大部分が消失したが、改変エリアの周辺に草地が残存しているほか、ヒメオオメナガカメムシなど草地や畑地に生息する同様の生態を持つ種が改変エリア周辺で確認されていることから、今回の事後調査では確認されなかったものの、改変エリアの周辺では本種の生息環境は維持されていると考えられる。

表 6-140 影響予測結果と確認状況（ルリヒメジョウカイモドキ）（昆虫類：43/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ルリヒメジョウカイモドキ	工事	対象事業実施区域の周辺地域である■■■■の草地で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ルリヒメジョウカイモドキ

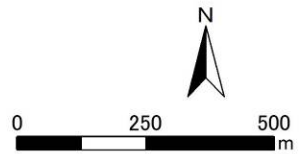


図 6-134 ルリヒメジョウカイモドキ確認地点

(7) ベニヒラタムシ

ベニヒラタムシの影響予測結果と確認状況を表 6-141 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるベニヒラタムシの確認地点を図 6-135 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は、主に樹林内の朽木の樹皮下に生息し、また、環境影響評価時に確認された地点は、事業により改変されない [] であったため、今回の事後調査では確認されなかったものの、事業による本種への影響は小さかったと考えられる。また、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、本種が生息する樹林は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-141 影響予測結果と確認状況（ベニヒラタムシ）（昆虫類：44/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業 実施	改変 エリア
ベニヒラタムシ	工事	おもに朽ち木の樹皮下に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど 影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ベニヒラタムシ

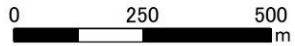


図 6-135 ベニヒラタムシ確認地点

(7) ムナビロオオクスイ

ムナビロオオクスイの影響予測結果と確認状況を表 6-142 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるムナビロオオクスイの確認地点を図 6-136 に示した。

環境影響評価時には改変エリアの 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本事業では、本種が主な生息場所としている樹液の出るクヌギやコナラを含む既存の樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息地は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-142 影響予測結果と確認状況（ムナビロオオクスイ）（昆虫類：45/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ムナビロオオクスイ	工事	クヌギ、コナラ、ヤナギなどの樹液に集まる種であり、改変エリアである対象事業実施区域■■■■のコナラ林で確認されている。造成により確認された環境が消失するため影響があるが、対象事業実施区域の周辺地域や非改変エリアには同様の環境が残されることから、対象事業実施区域およびその周辺地域を含む地域に生息する個体群への影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	1	1	1
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ムナビロオオクスイ

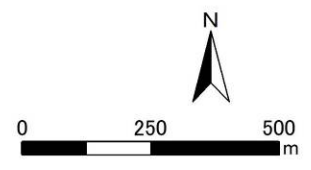


図 6-136 ムナビロオオクスイ確認地点

(ウ) セグロツヤテントウダマシ

セグロツヤテントウダマシの影響予測結果と確認状況を表 6-143 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるセグロツヤテントウダマシの確認地点を図 6-137 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は草地や林内等の地表の植物遺骸から発生するホコリタケに生息する。ホコリタケが発生可能である草地や樹林は、本事業で既存樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-143 影響予測結果と確認状況（セグロツヤテントウダマシ）（昆虫類：46/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	改変エリア
セグロツヤテントウダマシ	工事	ホコリタケに生息する種であり、非改変エリアである対象事業実施区域 [] に任意に設置した [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- セグロツヤテントウダマシ

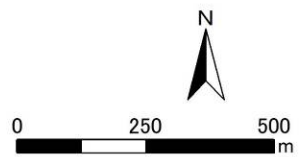


図 6-137 セグロツヤテントウダマシ確認地点

(7) コクビボソムシ

コクビボソムシの影響予測結果と確認状況を表 6-144 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるコクビボソムシの確認地点を図 6-138 に示した。

環境影響評価時には、対象事業実施区域 1 地点を含む調査範囲の 3 地点で確認された。供用後の事後調査では対象事業実施区域の 1 地点で確認された。本種は主に樹林に生息する。供用後の事後調査では環境影響評価時と同様に対象事業実施区域で確認されており、本種への影響はほとんどなかったと考えられる。また、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、本種が生息する樹林は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-144 影響予測結果と確認状況（コクビボソムシ）（昆虫類：47/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	変更エリア
コクビボソムシ	工事	樹林などに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である■■■■のモミ林や非変更エリアである対象事業実施区域■■■■のコナラ林などで確認されている。変更エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の変更による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	3	1	0
	存在・供用	変更エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	1	1	0



注目すべき種の保護の目的から、確認位置に係る情報は公表しないこととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア
- H25 確認種
● コクビボソムシ
- H17 確認種
● コクビボソムシ

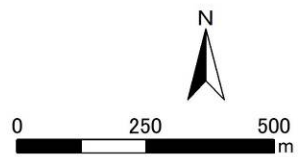


図 6-138 コクビボソムシ確認地点

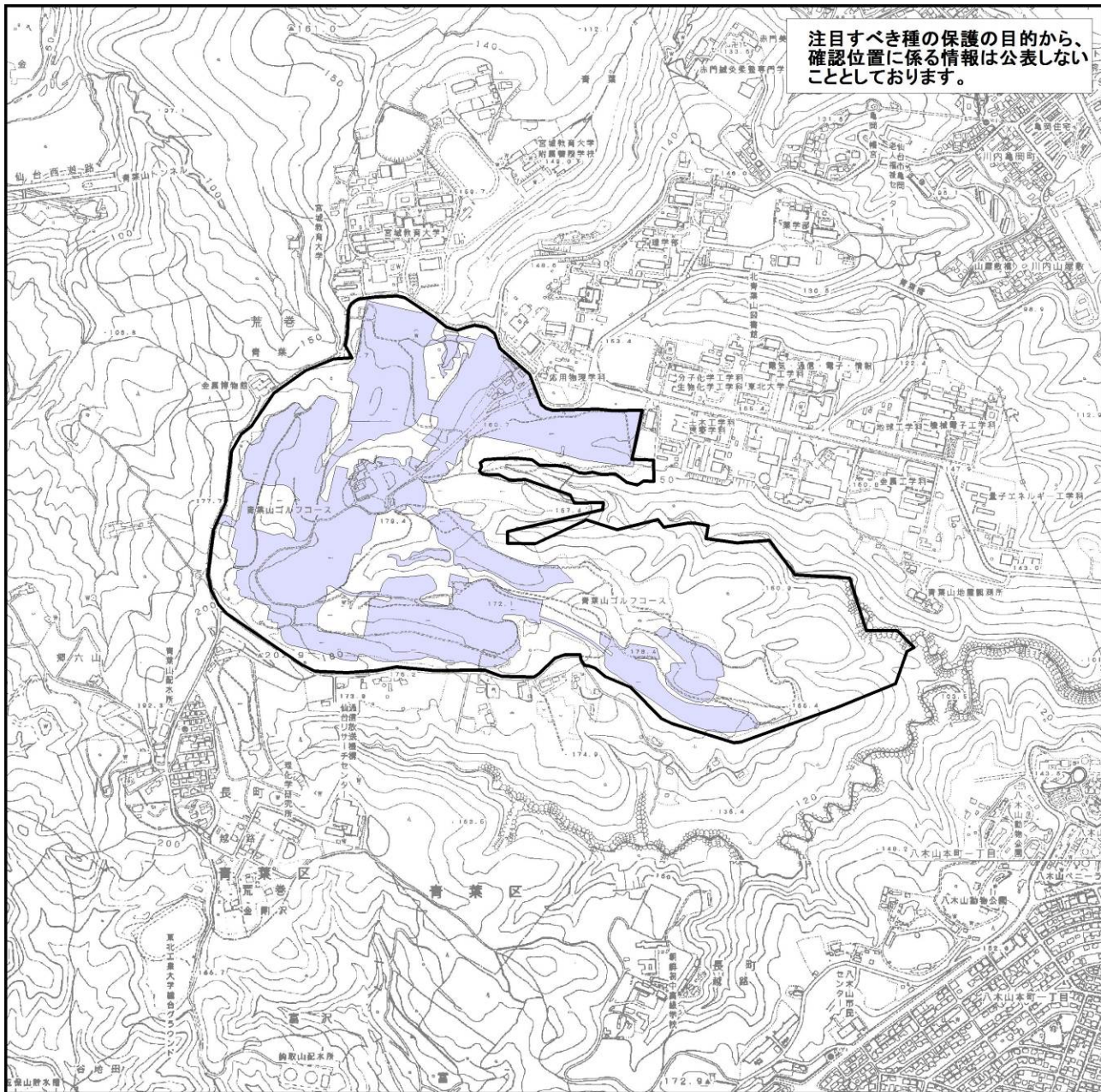
(イ) ヨコヤマトラカミキリ

ヨコヤマトラカミキリの影響予測結果と確認状況を表 6-145 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヨコヤマトラカミキリの確認地点を図 6-139 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種の幼虫はクリ等の広葉樹を寄主植物とする。本事業では、本種の生息環境であるクリ等の広葉樹を含む既存樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-145 影響予測結果と確認状況（ヨコヤマトラカミキリ）（昆虫類：48/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ヨコヤマトラカミキリ	工事	成虫はミズキなどを訪花し、幼虫はクリなどの広葉樹の細枝を寄主とする種であり、非改変エリアである対象事業実施区域■■■■のシバ草地で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ヨコヤマトラカミキリ

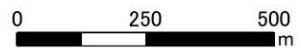


図 6-139 ヨコヤマトラカミキリ確認地点

(ウ) ハスオビヒゲナガカミキリ

ハスオビヒゲナガカミキリの影響予測結果と確認状況を表 6-146 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるハスオビヒゲナガカミキリの確認地点を図 6-140 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の1地点で確認された。供用後の事後調査では調査範囲の1地点で確認された。本種は、成虫がキイチゴやサワアジサイ等の枯木にみられ、幼虫はキイチゴやハナйкаダ等を寄主としている。本種の食草であるキイチゴ類やハナйкаダは対象事業実施区域に生育しており、また、供用後の事後調査で本種が確認されていることから、事業による本種への影響は、予測結果のとおりほとんどなかったと考えられる。

表 6-146 影響予測結果と確認状況（ハスオビヒゲナガカミキリ）（昆虫類：49/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	変更エリア
ハスオビヒゲナガカミキリ	工事	幼虫はキイチゴやハナйкаダを寄主とする種であり、対象事業実施区域の周辺地域である■■■■のモミ林で確認されている。変更エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の変更による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17~18)	1	0	0
	存在・供用	変更エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	1	0	0



注目すべき種の保護の目的から、確認位置に係る情報は公表しないこととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H25 確認種
● ハスオビヒゲナガカミキリ
- H17 確認種
● ハスオビヒゲナガカミキリ

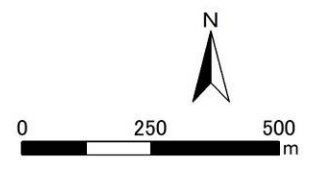


図 6-140 ハスオビヒゲナガカミキリ確認地点

(I) クモノスモンサビカミキリ

クモノスモンサビカミキリの影響予測結果と確認状況を表 6-147 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるクモノスモンサビカミキリの確認地点を図 6-141 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は、成虫はミズキ等の枯木にみられ、幼虫はミズキやリョウブ等を寄主とする。本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境である明るい林は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-147 影響予測結果と確認状況（クモノスモンサビカミキリ）（昆虫類：50/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
クモノスモンサビカミキリ	工事	幼虫はリョウブやミズキなどを寄主とする種であり、非改変エリアである■■■■のコナラ林で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	改変エリア内では確認されていないことから、影響は少ないものと予測される。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● クモノスモンサビカミキリ

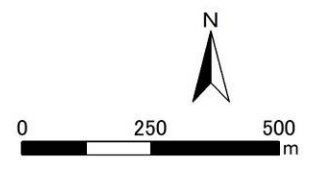


図 6-141 クモノスモンサビカミキリ確認地点

(オ) ツマグロシロノメイガ

ツマグロシロノメイガの影響予測結果と確認状況を表 6-148 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるツマグロシロノメイガの確認地点を図 6-142 に示した。

環境影響評価時には、対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種の幼虫はイボタノキを食樹とする。本事業では、イボタノキを含む既存樹林は極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境である林縁や明るい林は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-148 影響予測結果と確認状況（ツマグロシロノメイガ）（昆虫類：51/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ツマグロシロノメイガ	工事	幼虫はイボタを寄主とする種であり、非改変エリアである対象事業実施区域 [] に任意に設置した [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

- H17 確認種
- ツマグロシロノメイガ

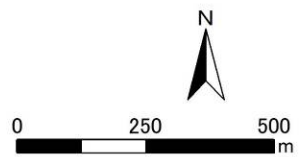


図 6-142 ツマグロシロノメイガ確認地点

(カ) スジグロチャバネセセリ

スジグロチャバネセセリの影響予測結果と確認状況を表 6-149 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるスジグロチャバネセセリの確認地点を図 6-143 に示した。

環境影響評価時には、改変エリアの 1 地点を含む調査範囲の 6 地点で確認された。供用後の事後調査では対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査において、対象事業実施区域で引き続き確認されていることから、事業による本種への影響は、予測結果のとおり少なかったと考えられた。ただし、環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避し個体数を減らした可能性も否定できない。

なお、今後、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性はあるが、対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保たれていることから、事業による影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-149 影響予測結果と確認状況（スジグロチャバネセセリ）（昆虫類：52/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
スジグロチャバネセセリ	工事	おもに平地から山地の草原や林縁に生息する種であり、改変エリアである対象事業実施区域■■■■のシバ草地のほか、対象事業実施区域の周辺地域である■■■■や非改変エリアである対象事業実施区域■■■■のクズ草地などで確認されている。造成により改変エリア内の生息環境が消失するが、対象事業実施区域の周辺および非改変エリアにも同様の環境が存在し、本種の生息が確認されていることから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	6	3	1
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	1	1	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア
- H25 確認種
● スジグロチャバナセセリ
- H17 確認種
● スジグロチャバナセセリ

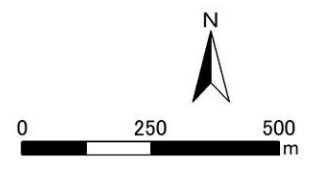


図 6-143 スジグロチャバナセセリ確認地点

(キ) ミヤマカラスアゲハ

ミヤマカラスアゲハの影響予測結果と確認状況を表 6-150 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるミヤマカラスアゲハの確認地点を図 6-144 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は、主に山地に見られ、幼虫はキハダ、カラスザンショウ、サンショウ等を食樹とする。本事業では、既存樹林を極力残すように配慮し、食樹となるキハダ、カラスザンショウ、サンショウ等も樹林内に生育していることから、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性を保っていく。

表 6-150 影響予測結果と確認状況（ミヤマカラスアゲハ）（昆虫類：53/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ミヤマカラスアゲハ	工事	本州では、おもに山地の樹林周辺に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である■■■■のアカマツ林において確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	1	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ミヤマカラスアゲハ

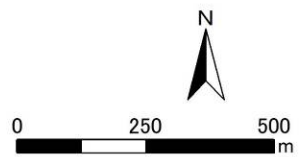


図 6-144 ミヤマカラスアゲハ確認地点

(ク) コツバメ

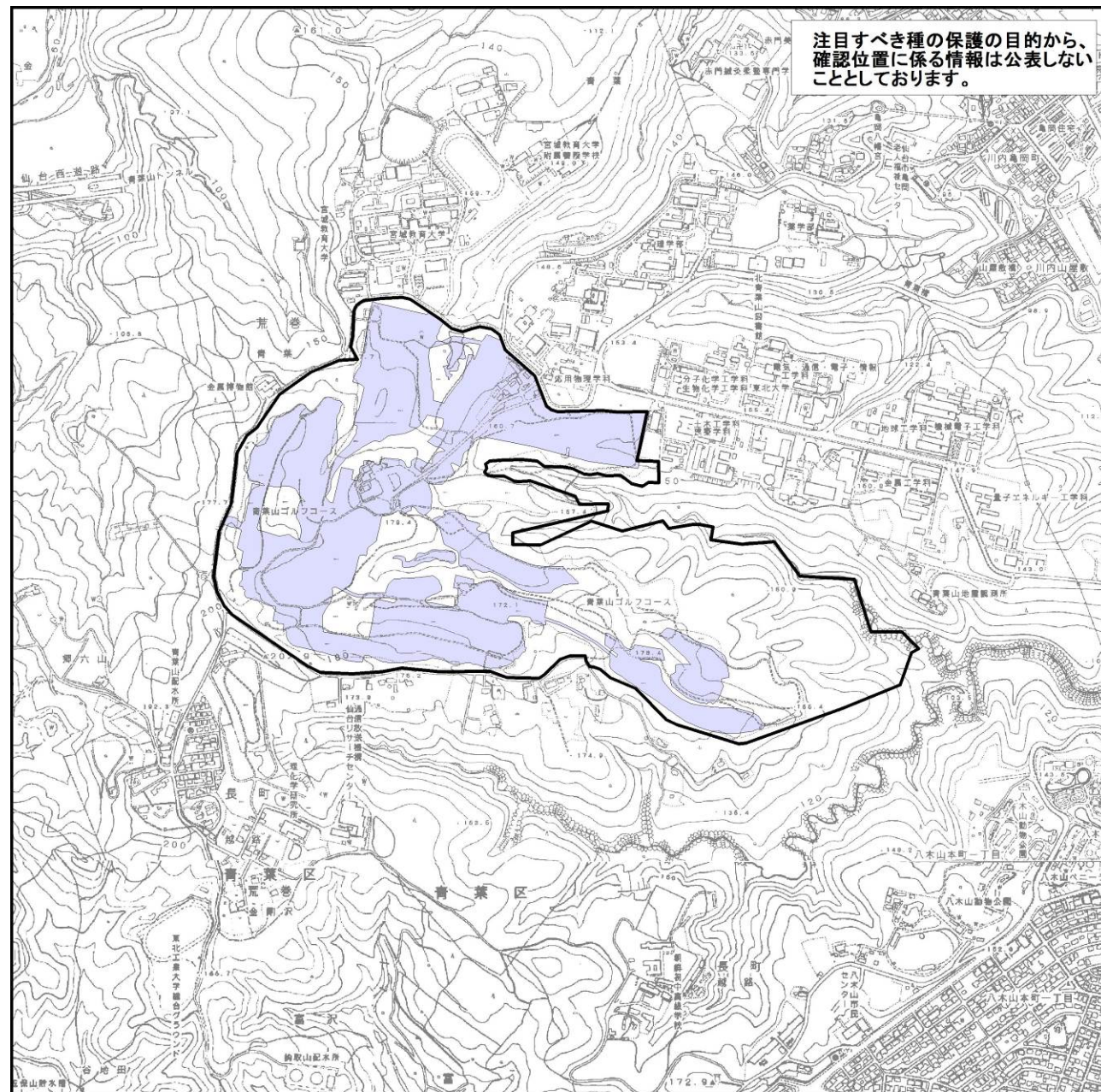
コツバメの影響予測結果と確認状況を表 6-151 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるコツバメの確認地点を図 6-145 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は主に丘陵地や山地の雑木林周辺に生息する。供用後の事後調査で確認されなかったが、本種は早春に発生するチョウであり、春季調査より早い 4 月～5 月上旬に発生していたと考えられる（環境影響評価時には、早春季の調査を実施している。表 6-96 参照）。今回の事後調査では確認されなかったものの、本種が主な生息場所とする林縁の環境は、既存樹林を極力残すように配慮したことにより維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性を保っていく。

表 6-151 影響予測結果と確認状況（コツバメ）（昆虫類：54/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
コツバメ	工事	おもに丘陵地や山地の雑木林の周辺に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である■■■■のコナラ林で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



注目すべき種の保護の目的から、確認位置に係る情報は公表しないこととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 変更エリア
- H17 確認種
- コツバメ

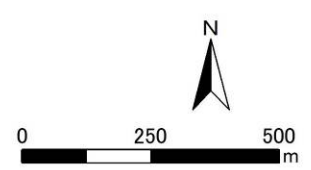


図 6-145 コツバメ確認地点

(ケ) ウラクロシジミ

ウラクロシジミの影響予測結果と確認状況を表 6-152 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるウラクロシジミの確認地点を図 6-146 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では対象事業実施区域の 1 地点で確認された。本種は主に丘陵地や山地の落葉樹林に生息する。供用後の事後調査では対象事業実施区域で確認されていることに加え、本事業では既存樹林地を極力残すように配慮しており、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このことから事業による本種への影響はほとんどなかったと考えられる。

なお、今後、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性はあるが、対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保っていく。

表 6-152 影響予測結果と確認状況（ウラクロシジミ）（昆虫類：55/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	対象事業実施区域	変更エリア
ウラクロシジミ	工事	おもに丘陵地や山地の落葉樹林に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] のコナラ林で確認されている。変更エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の変更による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	1	1	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H25 確認種
● ウラクロシジミ

H17 確認種
● ウラクロシジミ

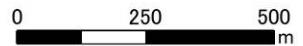


図 6-146 ウラクロシジミ確認地点

(コ) ウラナミアカシジミ

ウラナミアカシジミの影響予測結果と確認状況を表 6-153 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるウラナミアカシジミの確認地点を図 6-147 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 2 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は主に丘陵地のコナラ、クヌギ林に生息する。本事業では既存樹林を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種が生息するコナラ、クヌギを含む樹林は維持されていることから、本種の生息環境も維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保っていく。

表 6-153 影響予測結果と確認状況（ウラナミアカシジミ）（昆虫類：56/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
ウラナミアカシジミ	工事	おもに丘陵地、山地のコナラ、クヌギ林に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である ████████ ████████ のコナラ林などで確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17～18)	2	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ウラナミアカシジミ

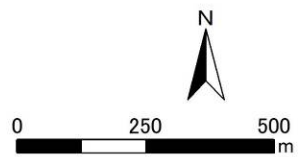


図 6-147 ウラナミアカシジミ確認地点

(4) ムラサキシジミ

ムラサキシジミの影響予測結果と確認状況を表 6-154 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるムラサキシジミの確認地点を図 6-148 に示した。

環境影響評価時には、調査範囲 3 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は常緑カシ類が見られる林に生息し、幼虫はアラカシやウラジロガシ等を食樹とする。本事業では、本種の生息環境である常緑カシ類を含む既存樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保っていく。

表 6-154 影響予測結果と確認状況（ムラサキシジミ）（昆虫類：57/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
ムラサキシジミ	工事	おもに常緑カシ類のみられる林に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] や非改変エリアである対象事業実施区域 [] のコナラ林などで確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17~18)	3	2	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ムラサキシジミ

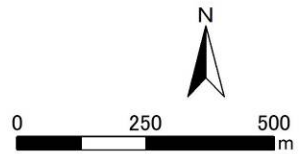


図 6-148 ムラサキシジミ確認地点

(シ) ヒオドシチョウ

ヒオドシチョウの影響予測結果と確認状況を表 6-155 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヒオドシチョウの確認地点を図 6-149 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は主に樹林周辺に生息し、幼虫はエノキ、アキニレ等のニレ科やヤナギ類等を食樹とする。本事業では、本種の食樹となるニレ科やヤナギ類等を含む既存樹林地を極力残すように配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保っていく。

表 6-155 影響予測結果と確認状況（ヒオドシチョウ）（昆虫類：58/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
ヒオドシチョウ	工事	おもに樹林周辺に生息するが、時に市街地でみられることもある種であり、非改変エリアである対象事業実施区域■■■■のコンラ林で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい（影響個体が少ないか軽減可能）	環境影響評価（H17～18）	1	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査（H25）	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ヒオドシチョウ

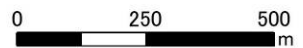


図 6-149 ヒオドシチョウ確認地点

(ス) ウラキンシジミ

ウラキンシジミの影響予測結果と確認状況を表 6-156 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるウラキンシジミの確認地点を図 6-150 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は一般に山地性で、成虫はクリ、シシウド等の花で吸蜜し、幼虫はモクセイ科のトネリコ、コバノトネリコ、シオジ、ホソバアオダモ等を食樹とする。本事業では、本種の食樹を含む既存樹林を極力維持するよう配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保っていく。

表 6-156 影響予測結果と確認状況（ウラキンシジミ）（昆虫類：59/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
ウラキンシジミ	工事	おもに山地の落葉樹林に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である ████████ において確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ウラキンシジミ

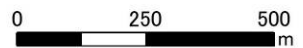


図 6-150 ウラキンシジミ確認地点

(セ) テングチョウ

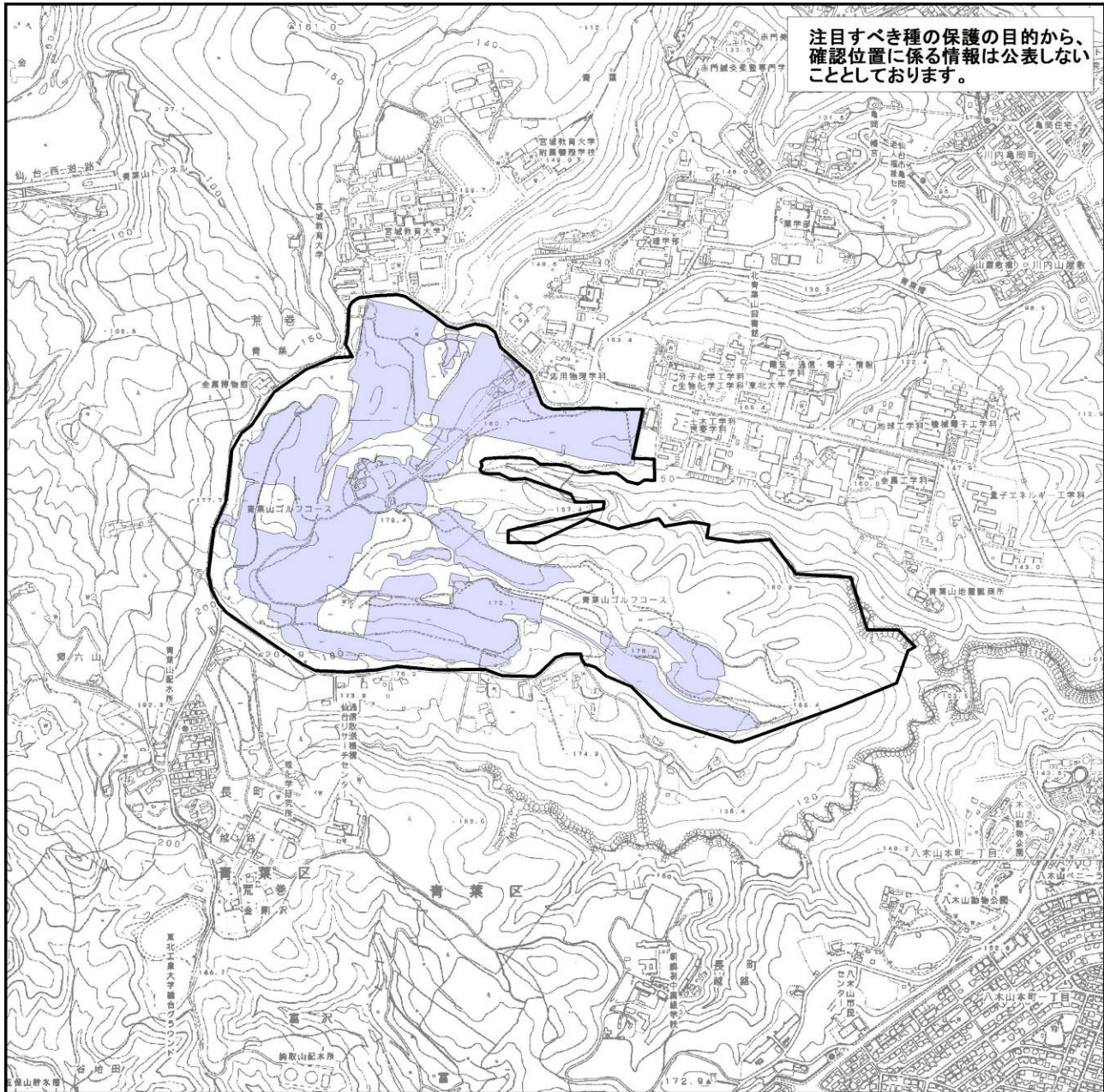
テングチョウの影響予測結果と確認状況を表 6-157 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるテングチョウの確認地点を図 6-151 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は樹林周辺などに生息し、幼虫はニレ科植物のエノキ等を食樹とする。本事業では、本種の食樹を含む既存樹林を極力維持するよう配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保っていく。

表 6-157 影響予測結果と確認状況（テングチョウ）（昆虫類：60/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
テングチョウ	工事	おもに平地から低山地の樹林周辺に生息する種であり、非改変エリアである対象事業実施区域■■■■のコナラ林において確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	1	1	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● テングチョウ

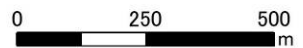


図 6-151 テングチョウ確認地点

(7) ミスジチョウ

ミスジチョウの影響予測結果と確認状況を表 6-158 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるミスジチョウの確認地点を図 6-152 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は樹木の周辺や溪流沿いなどに生息し、幼虫はイロハカエデ、ヤマモミジ等のカエデ類を食樹とする。本事業では、本種の食樹を含む既存樹林を極力維持するよう配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保っていく。

表 6-158 影響予測結果と確認状況（ミスジチョウ）（昆虫類：61/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
ミスジチョウ	工事	おもに山地の樹木の周辺や溪流沿いなどに生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である ████████ ████████ において確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	ほとんど影響なし	環境影響評価 (H17~18)	1	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● ミスジチョウ

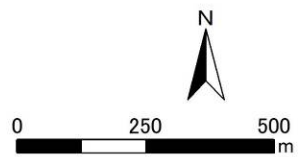


図 6-152 ミスジチョウ確認地点

(イ) オオムラサキ

オオムラサキの影響予測結果と確認状況を表 6-159 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるオオムラサキの確認地点を図 6-153 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 2 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は、山地、丘陵地、平地の樹林に生息し、幼虫はニレ科植物のエノキ等を食樹とする。本事業では、本種の食樹を含む既存樹林を極力維持するよう配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、建物の建設が進むと工作物等の出現による移動阻害の可能性が示唆される。対象事業実施区域では多くの草地が残され林縁、樹林との連続性も保っていく。

表 6-159 影響予測結果と確認状況（オオムラサキ）（昆虫類：62/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業 実施	改変 エリア
オオムラサキ	工事	平地、山地、丘陵地の樹林に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	2	0	0
	存在・供用	工作物等の出現による移動阻害の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● オオムラサキ

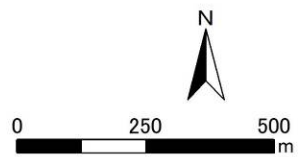


図 6-153 オオムラサキ確認地点

(f) カギバアオシヤク

カギバアオシヤクの影響予測結果と確認状況を表 6-160 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるカギバアオシヤクの確認地点を図 6-154 に示した。

環境影響評価時には対象事業実施区域の 3 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は樹林周辺に生息し、幼虫はコナラ、クヌギ、カシ類を食樹とする。本事業では、本種の食樹を含む既存樹林を極力維持するよう配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-160 影響予測結果と確認状況（カギバアオシヤク）（昆虫類：63/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
カギバアオシヤク	工事	幼虫はコナラ、クヌギ、カシ類を寄主とする種であり、非改変エリアである [redacted] [redacted] などで確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい（影響個体が少ないか軽減可能）	環境影響評価（H17～18）	3	3	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査（H25）	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● カギバアオシャク

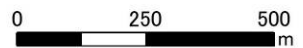


図 6-154 カギバアオシャク確認地点

(ツ) コウチスズメ

コウチスズメの影響予測結果と確認状況を表 6-161 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるコウチスズメの確認地点を図 6-155 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 1 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は主に低山地から山地の落葉広葉樹林内に生息する。本事業では本種の生息環境である落葉広葉樹を含む既存の樹林を極力維持するよう配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-161 影響予測結果と確認状況（コウチスズメ）（昆虫類：64/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域 対象事業実施	改変エリア
コウチスズメ	工事	おもに低山地から山地の落葉広葉樹林内に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい (影響個体が少ないか 軽減可能)	環境影響評価 (H17～18)	1	0	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性はある。		供用後の事後調査 (H25)	0	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 改変エリア

H17 確認種
● コウチスズメ

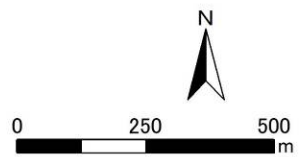


図 6-155 コウチスズメ確認地点

(7) アカシャチホコ

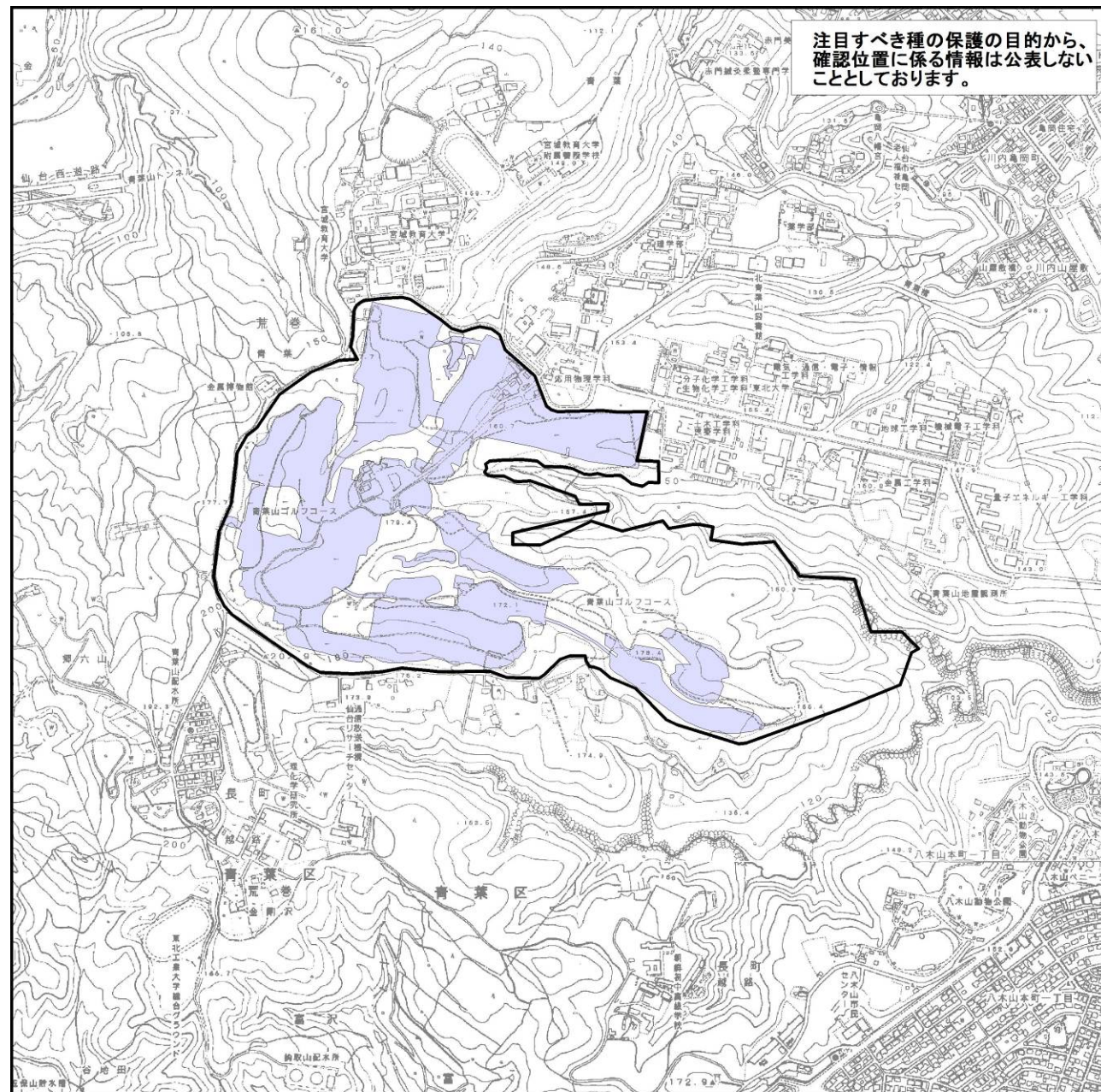
アカシャチホコの影響予測結果と確認状況を表 6-162 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるアカシャチホコの確認地点を図 6-156 に示した。

環境影響評価時には調査範囲の 2 地点で確認された。供用後の事後調査では本種は確認されなかった。環境影響評価時の本地域の環境は、使用されていないゴルフ場であったのに対し、供用後の事後調査時には、土地が造成され建物等の建設工事が行われており、本種がこういった周辺環境の変化を忌避した可能性は否定できない。ただし、本種は、ブナーミズナラ帯の樹林付近で見られ、幼虫はマンサクを食樹とする。本事業では、本種の生息環境であるブナーミズナラ帯の樹林を含む既存の樹林を極力維持するよう配慮しており、今回の事後調査では確認されなかったものの、本種の生息環境は維持されていると考えられる。このため、事業による本種への影響は事業者の実行可能な範囲で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

本種は、事後調査では確認されなかったが、今後、改変エリアに飛来することも考えられるため、今後さらに供用が進むと施設や道路等の照明に誘引され車両に轢かれる等の斃死の可能性が示唆される。よって、本事業では昆虫類等が誘引されにくい街路灯の使用及び緑地に面した窓にはブラインドを用いる等の保全措置を行っていく。

表 6-162 影響予測結果と確認状況（アカシャチホコ）（昆虫類：65/65）

種名	影響要因	環境影響評価時		調査年度	確認地点数		
		予測結果	影響の程度		調査範囲	区域対象事業実施	改変エリア
アカシャチホコ	工事	ブナーミズナラ帯に生息する種であり、対象事業実施区域の周辺地域である [] で確認されている。改変エリア内では確認されていないことから、対象事業実施区域の改変による影響は少ないものと予測される。	影響小さい（影響個体が少ないか軽減可能）	環境影響評価（H17～18）	2	0	0
	存在・供用	施設や道路等の照明に誘引され、車両に轢かれるなど斃死の可能性がある。		供用後の事後調査（H25）	0	0	0



注目すべき種の保護の目的から、確認位置に係る情報は公表しないこととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
(対象事業実施区域境界より200m)
- 変更エリア
- H17 確認種
● アカシャチホコ



図 6-156 アカシャチホコ確認地点